

76  
155

實地  
活用  
日本  
手形法  
通義  
增戶勤三著

035388-000-8

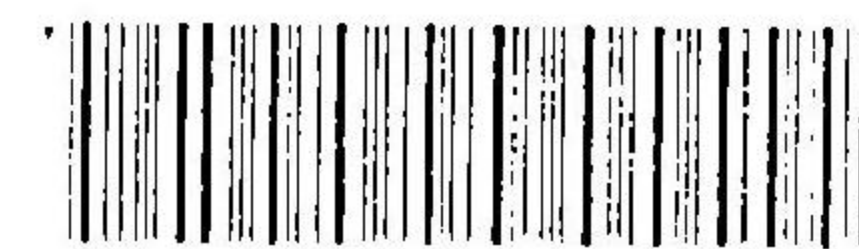
76-155

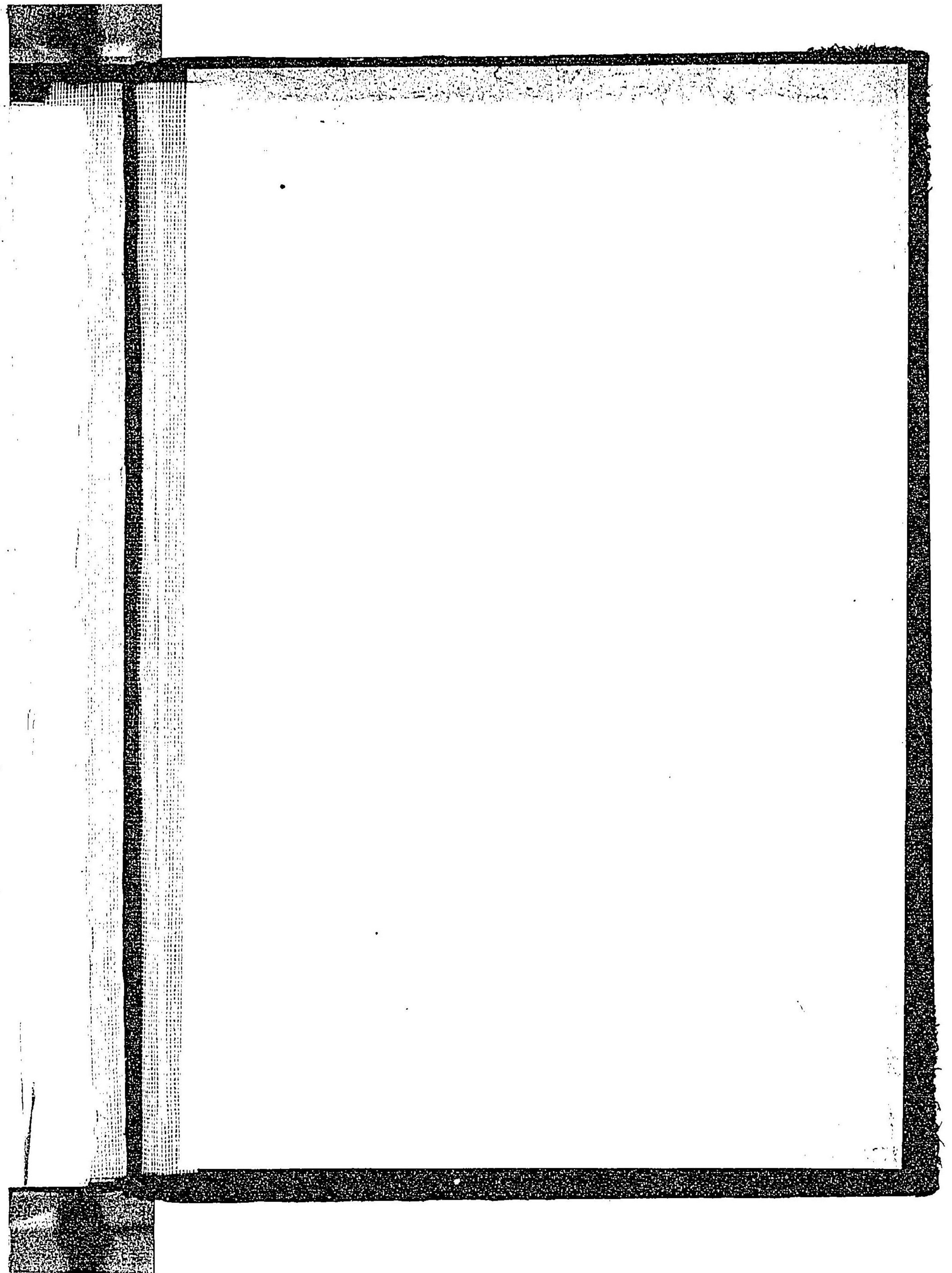
日本手形法通義

增戶 勤三 / 著

M30

BBO-0573





序文

増戸勤三君曩ニ職ヲ裁判所ニ奉シ法律事務ニ通曉



ヲ日本銀行大阪支店ニ入テ手形小切手

等ノ實地使用法ニ就キ研究ヲ重テ此書ヲ著ハサル此

著書ノ普通法律家ノ著書ニ異ル處ニシテ此書ノ眞價

亦茲ニ存ス余一讀スルニ普通解釋書ノ如ク逐條説明

スルニ非テ原理ニ基キテ立案シ章節欸等ヲ舉テ

説明シ關係ノ法文省令等ヲ掲ケ書式ヲ要スルモノハ

文例ヲ示ス等遺ス處ナシ然リ而シテ行文流暢明快ニ

シテ繁雜ニ流レズ能ク簡明ノ二点ヲ備ヘタリ日常繁忙ノ實業者ト雖モ二三時間ヲ以テ一讀スルヲ得ルノミナラズ容易ニ手形小切手ノ原理ニ精通スルヲ得ベシ實ニ其名ニ背カザル好著ナリ定メテ世ニ益スルヲ多カルベシ大阪ハ我國中手形ノ最モ盛ニ行ハル、所ナリト雖モ然カモ商人ニシテ手形法ニ通セサルモノ多ク手形ノ不渡ニ逢テ倉皇爲ス所ヲ知ラズ拒証書ノ作成ヲ怠リ時日遲延ノ爲メ裏書人ニ對シ償還請求ノ權利ヲ失フモノアリ又小切手ヲ振出ニ當リ法文ニ

觸レ科料ニ處セラレ、ヲ知ラズシテ虚偽ノ日附ヲ記入シ又ハ一時融通ノ爲メ預ケ金ナキニ小切手ヲ振出シ法律ニ觸ル、處行ナルヲ知ラザルモノアリ今ヤ實業ノ發達スルニ從ヒ手形ノ使用流通モ大ニ増加シタレバ未ダ手形ノ使用ニ觸レサルノ人又手形ノ使用ニ觸ル、モ未ダ其原理ニ適セサルノ人ハ餘暇ヲ以テ此書ヲ一讀セバ將來大損害ヲ防クノ一助ト爲スヲ得ベシ手形法ハ強力ナル蒸氣機關ノ如シ實業者ニシテ手形ノ使用法ヲ知ラザルキハ恰モ素人ヲシテ蒸氣

機關ヲ運轉セシムルガ如シ何時大損傷ヲ來スヤモ計  
リ難シ豈ニ危カラズヤ聊カ蕪辭ヲ述テ序文ニ代フ

山口 吉

第一章 爲替手形  
第一節 爲替手形ノ解

爲替手形トハ振出人ヨリ支拂人ニ宛テ或ル金額ヲ無條件ニテ  
受取人ニ支拂フヘキ旨ヲ明記シ指圖式又ハ無記名式ニテ發行  
スル信用証券ナリ之ヲ詳言スレハ指圖式トハ受取人ノ氏名若  
クハ全人ノ指名シタル者ノ氏名ヲ記載シタル手形ニシテ何某  
殿又ハ全人指圖人ニ御支拂被下候ト記載シタルモノヲ云フ無  
記名式トハ手形受取人ノ氏名ヲ記載セサル手形ニシテ此手形  
所持人ニ御支拂可被下候ト記載シタルモノヲ云フ無條件トハ  
未來ノ偶成事件ノ發生シタルトキ手形金ヲ支拂フ旨ヲ記載ス  
ヘカラス必ス何年何月何日金額ヲ支拂フ旨ヲ記入スヘキ謂ナ  
リ例之甲某カ乙某ニ宛テ手形ヲ振出シ此手形金ハ山城丸カ朝

鮮ヨリ神戸港ニ到着シタルトキ支拂可被下候ト記載シタル手形ハ無効ナリ其理由ハ手形ハ本來支拂確實ニシテ融通ノ爲メ使用スルヲ目的トスルモノナルニ條件付ナルトキハ支拂不確實ナルヲ以テ手形ノ目的ニ矛盾スレハナリ

以上述フルカ如ク爲替手形ノ成立ニハ振出人支拂人受取人ノ三人ヲ要スルモノナリ然レモ又場合ニヨリ二人ニシテ成立スルコトアリ即チ振出人ニシテ受取人ヲ兼ヌル時ノ如シ而シテ手形ノ關係ハ或ハ時ニ繁雜ヲ加ヘ此三人ニ止マラサルコトアリ即チ受取人期限内金員ヲ要スルモ融通ノ爲メ手形ヲ他人ニ讓渡スコトアリ此讓渡人ヲ裏書讓渡人ト云ヒ讓受ケタル者ヲ裏書讓受人ト云フ(裏書スルコトハ指圖式ニ限ル)(又無記名式手形ハ裏書ヲ要セス單ニ引渡ノミニテ讓渡スモノナリ)又手形ハ他人ノ計算ノ爲メニ振

出スコトアリ此他人ヲ委任者ト云ヒ振出人ヲ計算ノ爲メノ振出人ト云フ例之仲買人カ委任ヲ受ケ或ル商品ヲ賣捌キ全時ニ其人ノ計算ヲ以テ手形ヲ振出す場合ノ如シ又支拂人引受ヲ爲サ、ルモ關係ナキ他人カ振出人其他手形關係人ノ名譽ヲ維持スル爲メ支拂ノ引受ヲ爲スコトアリ之ヲ榮譽引受人ト云フ又他人カ支拂人ニ代リ支拂地外ニテ支拂フトキハ之ヲ他所拂人ト云フ以上數多ノ關係人ノコトハ後章ニ於テ詳述スヘシ之ヲ要スルニ爲替手形ニハ必ス三人ヲ要スレモ場合ニヨリ二人ト爲ルコトアリ然レモ其實三人ノ關係ナルニ付手形ハ有効ナリ即チ振出人ニシテ受取人ト爲ル場合はレナリ此特例ヲ設ケタル所以ハ蓋シ支店或ハ代理店ヲ有スル振出人ニ便利ヲ與フル爲ナラン

## 第二節 手形ノ効用

爲替手形ノ効用ハ先ツ主トシテハ左ノ二点ニアリ一ハ融通ノ機關トナリ二ハ通貨ノ代用ヲ爲スニアリ

第一、遑隔ノ地へ送金スルニハ多分ノ費用ヲ要スルハ勿論遑送中盜難紛失等不意ノ危険ハ往々免レサルモノナリ然ルニ爲替手形ヲ發行シ使用スルキハ此費用及危険ヲ除クノ利アリ例之大阪ノ甲者長崎ノ乙者ニ百圓ノ商品ヲ賣渡シタルニ長崎ノ丙者モ亦大阪ノ丁者ニ百圓ノ商品ヲ賣渡シタリト假定センニ甲者ハ乙者ニ宛テ手形ヲ振出シ之ヲ丁者ニ賣渡シ丁者ハ之ヲ丙者ニ送付シ乙者ヨリ其金額ヲ受取ルヘシ如斯スルキハ金額ヲ送付セスシテ四人間ノ權利義務ハ消滅スヘシ

第二、手形ハ商品ノ代金支拂ノ爲メ通貨ノ代用ニ供スルニトテ得ルノミナラス亦通貨ニ交換スルヲ得ヘシ例之前例ノ場合ニ甲者長崎ノ戌者ヨリ商品ヲ買ヒ入レタルトキ代金ヲ送ラヌシテ乙者ニ宛テ振出シタル手形ヲ送付シ戌者ハ乙者ヨリ其金額ヲ受取ルトキハ手形ハ通貨ノ代用ヲ爲ス又手形ヲ所持スル者ニシテ支拂期日前金額ヲ得ントスルトキハ之ヲ銀行ニ持參シ捌引ヲ求メ金額ヲ受取ルヲ得ヘシ

## 第三節 爲替手形ノ方式

手形ハ商人間ニ轉帳流通シ恰モ通貨ト同一ナル融通力ヲ有スル信用証券ナルヲ以テ法律上嚴重ナル方式ヲ定メ詐欺其他奸策ノ流通上ニ行ハル、コヲ防止セサルヘカラス是レ手形ニ嚴格ナル條件ヲ要スル所以ナリ其條件ハ左ノ如シ

第一、振出ノ年月日及ヒ場所 第二、爲替金額但文辭ヲ以テ記ス

ヘシ 第三、支拂人ノ氏名 第四、受取人ノ氏名又ハ指圖セラレ  
 タル人若クハ所持人ニ支拂フヘキ旨及ヒ満期日并ニ支拂地  
 第五、振出人ノ署名捺印  
 手形ニ要スル條件ハ重要ナルモノナルカ故左ニ其要ヲ詳述ス  
 ヘシ

先ツ振出ノ年月日ヲ要スル理由ヨリ説カシテ手形ハ商取引ヲ  
 爲ス能力アル者ニアラサレハ之ヲ振出スコトヲ得サルヲ以テ  
 其振出シタル當時能力アル者タリシヤ否ヤヲ知ルニハ振出ノ  
 月付ニ據ラサルヘカラサル實用アルニ由ル又爲替手形ハ文辭  
 ナリテ記スヘシトハ原語ニアルカ如ク言辭ヲ以テ記スヘキ謂  
 ニシテ數字ヲ以テ記スヘカラサル意ナリ例之金額二百五十圓  
 ナルハ二五〇ト記サスシテ貳百五拾圓ト記スカ如シ而シテ凡

テ改措シ易キ文字ヲ用ユル并ニ金額ヲ書改ムル等ハ手形關  
 係者ノ利益ノ爲メ成ルヘク避クルヲ要ス次ニ支拂人ヲ要スル  
 ハ支拂ナキトキハ支拂引受ヲ求メ又ハ支拂ヲ請求スル能ハサ  
 レハナリ又第四ノ所持人トハ無記名式手形ノ所持人ヲ云フ此  
 手形ハ金額貳拾五圓以上ニアラサレハ振出スヲ得ヌ元來此手  
 形ハ引渡ノミニテ讓渡シ得ルモノナルヲ以テ容易ニ數人ノ間  
 ニ轉帳流通シ或ハ時ニ支拂ヲ不安全ニナスノ恐レアルノミナ  
 ラス手形ノ額面僅少ノ金額ナルトキハ取引上自ラ疎畧ニ流シ  
 往々誤リヲ生シ易キモノナルカ故ニ金額ニ制限ヲ設ケタルモ  
 ノナリ額面貳拾五圓以上ナルトキハ取引上自然注意ヲ加フル  
 ナリテ弊害ヲ減スルニ至ルヘシ濟期日トハ手形ノ支拂日ノ謂  
 ニシテ手形法ニテハ此濟期日ヲ四ツニ別テリ而シテ其期日ニ



ヨリ手形ヲ四ツニ別ツ

八

一、定期拂爲替手形 此手形ハ「右金額ハ何年何月何日某殿又ハ其指圖人ニ御支拂可被下候」ト記載シタル普通ノ手形ナリ

二、日付後定期拂手形 此手形ハ「右金額振出日付ヨリ何日間ニ御支拂可被下候」ト記載シタルモノナリ

三、一覽拂手形 此手形ハ「御一覽ノ上御支拂可被下候」ト記載シタルモノナリ

四、一覽後定期拂手形 此手形ハ「此手形御一覽後何日ノ間ニ御支拂可被下候」ト記載シタルモノニ付手形所持人ハ一應支拂人ニ手形ヲ呈示セサルヘカラス此呈示ノ日ハ支拂期日ヲ定ムル始メナレハナリ

以上述べタルカ如ク手形ニハ満期日ヲ記載スヘキモノナレトモ之ヲ記載セサル爲メ無効トナルモノニアラス只一覽拂手形ト變スルノミ

又支拂地ヲ記スヘキ理由ハ支拂地ナキトキハ支拂ヲ受クル能ハザレハナリ此支拂地ノ如何ニヨリ手形ノ種類異ナルコトアリ即チ支拂人カ自己ノ住所外ノ地ニ於テ支拂ヲナス旨記載シタル手形ハ手形法ニテハ之ヲ他所拂手形ト云フ例之大阪在住ノ支拂人カ神戸ニ於テ支拂フ旨ヲ記載シタル如シ又他人カ支拂人ニ代リ支拂人ノ住所外ニ於テ支拂ヲ爲ス旨記載シタルトキハ之ヲ他所拂手形ト云フ例之大阪ノ甲某カ東京ノ乙某ニ手形ヲ振出シ横濱ノ丙某カ横濱ニ於テ支拂フ旨ヲ記載シタルカ如シ又振出人ヲ記載スル理由ハ支拂人カ支拂ヲ拒ミタルトキ

九

ハ手形受取人ハ拒証書ヲ作り振出人ニ通知シ手形金ノ償還ヲ請求セサルヘカラス然ルニ此記載ナキトキハ償還請求ヲナス能ハサル不都合アレハナリ要スルニ振出人ヲ記載スルハ償還義務アルコトヲ暗ニ示スニ外ナラス

以上述ヘタル如ク爲替手形ニハ夫々方式ヲ要スルモノナルカ故若シ之ヲ具備セサルトキハ手形ハ無効ト爲ルヘシ又方式ヲ具備スルモ其條件互ニ矛盾スルトキハ無効ノ手形ト爲ルモノニ付此等ノ件々ハ手形ヲ振出ストキ最モ注意スルヲ要ス例之一定ノ金額ヲ記載シナカラ右金額相當ノ商品ヲ引渡スヘシ若クハ差引勘定ノ上支拂フヘシト記載シタルトキ又ハ支拂期日カ振出日付ノ前ニアリテ文言ノ抵觸スル場合ノ如キハ手形無効ト爲ルヘシ

#### 第四節 數通ノ手形并ニ騰本

手形ノ受取人又ハ所持人ハ振出人ニ向テ同文ノ手形數通ヲ請求スルヲ得然ルレ振出人ハ番號ヲ付シ數通ノ手形ヲ交付スヘシ此數通ヲ要スルハ遠隔ノ地ニ於テ支拂ヲ爲ス場合ハ往々遞送中手形ノ紛失又ハ盜難或ハ延着ノ恐レアルカ故此等ノ憂ヲ除カンカ爲メニハ豫シメ數通ノ手形ヲ數度ニ遞送方法ヲ異ニシ送付スルヨリ他ニ良策ナキニヨル之レノミナラス數通ノ手形アルトキハ一面ニハ支拂人ニ引受ケテ求メ又一面ニハ時期ヲ見賣却スルノ便利アリ但數通ヲ作りタルトキハ振出人ハ後日詐欺等ノ憂ヲ豫防スル爲メ其同文ノ手形ニ一二三ノ番號ヲ付スヘシ若シ番號ヲ付セサル爲メ支拂人カ數通ノ手形ニ對シテ支拂ヲ爲シタルトキハ振出人ハ之カ賠償ヲ爲サ、ルヘカラス

此場合ニ不服ヲ主張シ義務ヲ免ル、コトヲ得ス又所持人ハ需用ニ應シテ手形ノ謄本ヲ作ルコトヲ得ヘシ其目的ハ手形ヲ紛失シタルトキ其手形ハ真正ノモノタルニトテ証スル爲メナリ

第五節 手形ノ占有及消滅

手形ハ通貨ノ如ク何人ノ間ニモ轉帳流通スルモノニ付現ニ之ヲ所持スル者(即チ占有者ナリ)ハ其取得シタル方法ノ正當ナルト否トニ拘ハラス眞ノ所有者ノ如ク同視セラレ他人ヨリ取戻ノ請求ヲ受クルモ之ヲ排斥シ得ヘキカ曰ク然ラズ手形法ニ於テ手形所持人トシテ保護ヲ受クルニハ其所持スル原因ハ正當ノ方法ヨリ且ツ甚シキ過失ニ出テスシテ(即チ惡キヲ云フ意ナリ)之ヲ取得シタルニ限ル若シ其方法ハ正當ナルモ甚シキ過失ニ出ツルトキハ現ニ所持スルモ眞ノ所有者ヨリ請求アルトキハ之ヲ引渡サ、ル

ヘカラス例之相當ノ代價ヲ以テ又ハ擔保若クハ代理ノ爲メ取引上ヨリ現金ノ代用トシテ眞ノ手形所有者ヨリ讓受ケタルトキハ其後代人ヨリ取戻ノ請求ヲ受クルモ所持人ハ之ヲ排斥シ得ヘシ然レモ讓受人カ相當ノ代價ヲ以テ讓受クルモ其讓渡人カ取得シタル原因ハ詐欺又ハ竊取等不正ノ所爲ニアリテ其事ノ狀況通常人ノ爲スヘキ注意ヲ以テセハ發見シ得ラル、ニモ拘ハラス之ニ氣付カサルトキハ甚シキ過失アルヲ以テ眞ノ所有者ヨリ請求アルトキハ之ヲ引渡サ、ルヘカラズ然レモ正當ノ方法ニヨリ取得シタル所持人ト雖モ其手形ヲ返還セサルヘカラサル場合アリ即チ占有ノ原因消滅シタルトキ是ナリ(七百十條二項)例之擔保若クハ代理ノ爲裏書讓受タル後債權者カ負債ノ辨濟ヲ受ケタルキ代理人カ委任者ヨリ其委任ヲ解カ

レタルトキハ手形ヲ所持スルノ原因消滅セシテ以テ之ヲ返戻  
セサルヘカラス

手形ノ眞ノ所有者カ手形ヲ盜取セラレ又ハ紛失シ若クハ滅失  
シタル場合ニ於テ不正ノ所持人ノ判然セルトキハ其人ニ對シ  
手形ノ取戻ヲ請求シ得ルハ以上述ヘタル處ニヨリ明カナルモ  
若シ其所持人ノ何人タルヤ判然セス又手形モ現在セサルトキ  
ハ取戻ヲ請求スル能ハサルヲ以テ如斯場合ニ於テハ其手形ヲ  
無効ニシ更ニ前同條ノ手形ヲ得ルノ手續ヲ爲サ、ルヘカラス  
而シテ其手續ハ民事訴訟法第七百七十七條以下ノ規定ニ據リ  
公示催告ヲ爲スヘキモノナリ其大要ヲ述ヘンニ  
公示催告手續ヲ爲スニハ手形ニ表示シタル支拂地ノ區裁判所  
若シ其地ノ表示ナキトキハ手形發行人ノ住所ノ區裁判所ニ申

十四

十五

立テテ爲スヘシ而シテ申立人ハ申立書ノ外ニ其證據トシテ手  
形ノ謄本ヲ差出シ又ハ證書ノ重要ナル旨趣及證書ヲ十分ニ認  
知スルニ必要ナル諸件ヲ開示スヘシ又手形ノ盜難紛失滅失、及  
ヒ公示催告手續ヲ申立ツル理由タル事實ヲ証明スヘシ(民事訴訟  
法第七百  
六十五條  
第七百八十條)裁判所ニ於テハ其申立ヲ許スヘキモノトスルトキハ  
公示催告期日ニテニ權利ヲ裁判所ニ届出ヲ且ツ其手形ヲ提出  
スヘキ旨又失權トシテ手形ノ無効ノ宣言ヲ爲スヘキ旨ヲ公示  
スルモノナリ而シテ其期限内ニ權利ノ届出ヲ爲スモノナキト  
キハ除權判決ヲ爲シ其手形無効ナリト宣言ス此判決アリシ上  
ハ申立人ハ更ニ前同一ノ手形ヲ請求スルヲ得ヘシ  
參考ノ爲メ書式ヲ示サン

### 公示催告申立書

何府市町地身分職業

印紙  
二十錢

申立人 何 某

一為替手形金額何百圓也 但 振出人何某  
受拂出人何某

右為替手形ハ明治何年何月何日神戸大阪間ノ汽車旅行中竊  
取セラレ候ニ付公示催告ノ手續相成度商法第七百十一條ニ  
據リ申立候也

但為替手形ハ第一號付屬騰本ノ通り相違無之候

年月日 右申立人 何 某印

何區裁判所

監督判事 何 某殿

### 第六節 能力

手形ノ振出、支拂、裏書、讓渡、引受、保証等凡テ為替上ノ取引ハ商事  
ノ取引ナルヲ以テ凡テ商ヲ為シ得ル能力アル者ニ限ル其能力  
者ハ左ノ如シ（商法第十條第十一條  
第十二條參照スベシ）

第一獨立シテ義務ヲ負フコトヲ得ル者

第二獨立シテ義務ヲ負フコトヲ得サル者ト雖モ後見人ニヨリ

商業ヲ為ス者

第三男女ヲ問ハス未成者ニシテ年齢十八才ニ滿チ且父母又ハ

後見人ノ承諾ヲ得テ獨立ノ生計ヲ立ツル者

第四有夫ノ婦ニシテ夫ノ承諾ヲ得タル者

以上說キタル如ク手形ヲ振出ス等ノ事ハ能力者ニアラサレハ  
為ス能ハサルモ若シ能力ナキ者カ振出シタル手形ニ能力アル  
者カ支拂引受ケヲ為シタルトキハ其手形ハ有効ナリヤ如何例

之十八才未滿ノ甲者カ振出シタル手形ニ二十才ナル乙者カ支拂引受ヲ爲シタル如シ此場合ニハ其無能力者ニ對シテハ手形無効トナルモ之ニ反シ能力者ニ對シテハ有効ナリ故ニ乙者ハ所持人ニ對シ支拂ノ義務アルモノニシテ左ノ如ク主張スル能ハス即チ此手形ハ無能力者タル甲ノ振出シタルモノニ付支拂ノ義務ナシトス所持人ハ乙者カ支拂ヲ拒ミタリトテ甲者ニ對シ手形金ノ請求ヲ爲スヲ得ス何ントナレハ甲者ニ對シテハ無効ノ手形ダレハナリ但シ民事上請求スルハ別事タリ此規定アル理由ハ思フニ手形ニハ通例振出人、支拂人、裏書人、等數人ノ記名アリテ此者等ハ連帶シテ特立ノ義務ヲ負フモノニ付其内一人カ無能力者タリシ爲メ手形全体カ無効ト爲ラサルヲ云フニ外ナラス

爰ニ疑問アリ官吏カ手形ヲ振出シタルトキハ其手形ハ有効ナリヤ將タ無効ナリヤ曰ク此手形ハ有効ナリ一考スレハ官吏ハ商業ヲ爲スコトヲ禁止セラレタル者ニ付官吏カ振出シタル手形ハ無効ナルカ如キモ再考スルトキハ然ラサルユトテ發見スヘシ夫レ官吏ハ本來商業ヲ爲ス能ハサルモノニアラス官吏ハ智識才能普通人ヨリ優リタル者多キカ故商業ヲ爲ス能力ハ十分有スル者ナルモ若シ之ヲ許サンカ或ハ官吏ノ風紀ヲ紊シ其弊ヤ云フヘカラサルニ至ラン故ニ政略上之ヲ禁止シタルナリ然レモ此禁止ヲ犯シ商取引ヲ爲スモ取引其モノハ無効トナルモノニアラス即チ手形ノ支拂ヲ引受ケタル片ハ支拂ヲ爲サルヘカラス又只官吏ハ如斯場合ニハ官吏服務規律ニヨリ懲戒處分ヲ受クルニ止マルカ故ニ官吏カ手形ヲ振出シタルトキハ

其手形ノ有効タルコトニ付テハ一点ノ疑ナキモノナリ

第七節 偽造手形變造手形

偽造ノ手形トハ「振出人支拂人等ノ氏名ヲ偽リ作リタル不正ノ手形ナリ」變造ノ手形トハ手形ニ必要ナル部分即チ金高支拂場所期日等ヲ故意チ以テ變更シタル手形ナリ

此偽造變造ノ手形ハ有効ナル手形タルハ疑ナシ然レモ或ル場合ニハ無効ト爲ルコトアリ之ヲ有効トスル理由ハ要スルニ偽造變造ノ事情ヲ知ラサル手形所持人ヲ保護スル爲メナリ夫レ偽造變造ノ手形ト雖モ其情ヲ知ラサル者ニ裏書讓渡シ又ハ此手形ニ支拂人ノ支拂引受ケアルトキハ此者等ニ對シテハ有効ナル手形タルハ言テ疑ナシ何ントナレハ裏書人若クハ支拂人等ハ真正ノ手形ト信シタレハコソ裏書讓渡シ又ハ引受テ爲シ

タレハナリ故ニ裏書人支拂人等ハ情ヲ知ラサル所持人ニ對シ手形ノ義務ヲ果サ、ルヘカラス若シ此手形ヲ無効トセンカ善良ナル所持人ハ非常ノ損害ヲ被リ從テ手形ノ信用ハ薄弱ト爲リ融通ノ途ハ全ク杜絶スルニ至ルヘシ然レモ其偽名セラレタル者ニ對シテハ手形ハ無効ナルヲ以テ此者等ハ何等ノ責任ナシサリナカラ變造手形ニ付テハ少シク異ル所アリ(此事ハ後ニ説述スヘシ)以上述ヘタル如ク偽造手形ノ支拂ノ引受若クハ裏書讓渡ハ有効ト爲スヲ以テ支拂ヲ爲シタル支拂人若クハ偽造變造ノ爲メ手形金ヲ得ルヲ能ハサル裏書人ハ何人ニ對シ損害ノ賠償ヲ請求スルヲ得ルヤ此場合ニハ偽造變造シタル者若クハ其情ヲ知リテ手形ヲ取得シタル者ニ對シ請求ヲ爲スノ外ナシ尙ホ例示シテ説カン例之ハ甲者ヨリ乙者ノ氏名ヲ偽リ乙

者ヲ振出人トシ丙者ニ宛テタル手形ヲ作りシテ丁某ニ裏書讓渡シタリ丁者ハ(其替ヲ知ラサル者ナリ)之ヲ情ヲ知ラサル成者ニ裏書讓渡シ成者ハ之ヲ讓受ケ支拂人丙者ニ示シ支拂ヲ求メタルニ偽造ノ故ヲ以テ支拂ヲ拒ミタリ故ニ成者ハ丁者ニ對シ償還請求ヲ爲シタリ此場合ニ丁者ハ支拂ヲ拒ムヲ得ス何ントナレハ自己ノ裏書シタル手形ナレハナリ而シテ丁者ハ何人ニ對シテ請求スヘキヤ乙者ニ向テ爲サンカ乙者ハ偽名セラレタル者ニ付何ノ責任アルモノニアラス然ラハ甲某ニ請求スルノ外ナシ但此場合ハ手形ハ無効タルニ付手形上ノ請求ヲナスヘカラス只民法上損害賠償ノ權ヲ有スルノニ然ルニ變造手形ナルキハ右ニ述フル所ト少シク異ナルヘシ夫レ變造手形ハ變造ノ部分ニ付テハ何等ノ責任ナキモ其他ノ部分即チ真正ナル部分ニ付テハ

責任アルモノナリ例之ハ甲者カ乙者ニ宛テ五千圓ノ手形ヲ振出シ支拂人支拂ヲ引受ケタル後所持人ニ於テ八千圓ニ變造シ之ヲ丙者ニ讓渡シ丙者ハ之カ支拂ヲ求メタルキ支拂人ハ變造手形ナルコトヲ主張シ先キニ引受ケタル五千圓ノ支拂ヲ拒ムヲ得ス何ントナレハ己ニ引受ケタル義務ハ支拂ヲ爲サスシテ消滅スルモノニアラスレハナリ而シテ其餘ノ三千圓ハ前ノ裏書讓渡人ニ請求スヘキモノナリ是レ先ニ手形金額等ハ成ルヘク改描シ難キ標記スヘシト注意シタル点ト符合スルモノナリ

第八節 假設ノ手形

假設ノ手形トハ外面上ハ手形ノ方式ヲ備ヘタル如ク裝フタルモ其實方式ヲ備ヘサル手形ヲ云フ例之振出人若クハ支拂人又ハ受取人ノ氏名ハ記載アルモ其人ハ生存セサル虛無ノ人タル



カ如シ此手形ハ無効ナリヤ將々有効ナリヤ曰ク其假設ノ手形ヲ振出サシメタル者及其情ヲ知ル者ニ對シテハ手形ト看做サス只一ノ契約証ニ過キス然レモ其情ヲ知ラサル者即チ眞ノ手形ト信シ所持スル者ニ對シテハ手形ハ有効ナリ何トナレハ手形ハ其文面ノミニテハ眞實ノモノト信シ流通スルハ一般商人ノ常ナレハナリ例之甲者アリ實際現存セサル者ノ氏名ヲ作り之ヲ支拂人ト爲シ假設ノ手形ヲ發行シタリ此場合ニ其所持人情實ヲ知リタルキハ支拂ノ引受ヲ求ムルヲ得ス又甲者ニ對シテモ手形上ノ請求ヲ爲スヲ得ス何トナレハ這ハ手形トシテ効力ナキヲ以テナリ又前例ノ所持人其手形ヲ丙者ニ讓渡シ丙者假設ノ手形タルヲ知ラサルキハ其手形ハ有効ナルモノナルカ故乙者ニ支拂引受ヲ求ムルヲ得若シ引受セサルトキハ甲者ニ

對シ償還請求ヲ爲スヲ得ヘシ又甲者アリ虛無ノ人ヲ振出人トシ眞ノ乙者ヲ支拂人トシタル手形ヲ作り其情ヲ知ラサル丙者ニ讓渡シタルモハ丙者ニ對シテハ手形タル効力アリ故ニ丙者ハ乙者ニ支拂ヲ請求スルヲ得若シ乙者振出人虛無ナル故ヲ以テ支拂ヲ拒ミタルトキハ何人ニ對シ償還請求ヲ爲スヘキヤ此場合ニ振出人ニ請求スヘキモ其人虛無ナルヲ以テ甲者ニ對シ損害賠償ヲ求ムルノ外ナシ以上説キタル假設ノ手形ヲ發行スル場合ハ多クハ困難ナル商人カ一時ノ危急ヲ救ハンカ爲メ或ハ詐欺師カ不當ノ利ヲ貪ラントスル爲メ振出スモノナリ尙ホ一言スヘキハ此手形ト偽造ノ手形ト差別アル点ナリ偽造手形ハ署名ヲ偽ルニ在ル假設ノ手形ハ虛無ノ人ヲ生存セル人ノ如ク裝ヒ作りタルニ在ルナリ

第九節 時効

時効トハ 手形ノ支拂期日又ハ償還請求（償還請求トハ支拂入カ支拂ヲ拒ミタル手形所持人ハ拒証書ヲ作り其書人又ハ振出人ニ對シ手形ノ請求ヲ爲スニテ後ニ詳述スベシ）ノ通知ヲ振出人又ハ裏書人へ爲シタル日ヨリ三ヶ年間手形ノ請求ヲ爲カ、ルルハ其權利消滅スルヲ云フ此時効ノ規定ヲ設ケタル理由ハ請求權ヲ有スルコモ拘ハラズ之ヲ等閑ニ付シ請求セサル者ハ法律上ノ保護ヲ受クル能ハス法律ハ却テ如斯權利者ヲ懲戒スル爲メ失權セシメ手形上ノ責任ヲ速ニ終了シ手形ノ流通ヲシテ活潑ナラシムルノ利益アルニ因ル

第一款時効ノ起算方 時効ハ場合ニヨリ起算方ヲ異ニス左ニ詳述セン

第一、爲替手形引受人又ハ約束手形ノ振出人ニ對スル請求權ハ

支拂期日ヨリ起算ス

第二、爲替手形所持人ヨリ振出人又ハ裏書讓渡人ニ對シ又ハ裏書讓渡人ヨリ自己以前ノ讓渡人ニ對スル償還請求權ハ請求ノ通知ヲ成シタル日ヨリ起算ス（此下段ノ場合ハ甲乙丙ノ裏書讓渡人アリテ乙カ丙ヨリ請求ヲ受ケ手形金ヲ償フタルトキ乙カ甲ニ對シ請求スル場合ナリ後ニ詳述スベシ又此場合ハ拒証書ヲ要セサレトモ上段ノ場合ハ拒証書ヲ作ラサルベカラズ）

右第一第二ノ區別アル所以ハ第一ノ場合ハ支拂期日到來セ

サレハ請求權起テサレハナリ第二ノ場合ハ振出人又ハ讓渡人ノ義務ハ所持人ヨリ支拂期日ニ支拂入カ支拂ヲ拒ミタルニ付其拒証書ヲ作り之カ通知ヲ受ケタル時始メテ發生スルヲ以テ此時ヨリ請求權成立ス故ニ此日ヨリ時効ノ進行ヲ始ム

第三、一覽拂手形ハ手形ヲ支拂人ニ示シタル日ヨリ起算ス若シ

手形ノ日付ヨリ二ケ年間手形ヲ示サ、ル片ハ二ケ年ノ終リノ日ヨリ起算ス

第四、一覽後定期拂手形ハ其支拂日到来ノ日ヨリ起算ス但手形ヲ示スニ付二ケ年ヨリ短キ期限アル片ハ其期限若シ其期限ナキ片ハ二ケ年ノ終リヲ期限トシ此日ヨリ起算ス

### 第一款時効中斷

時効ノ中斷トハ已ニ過キ去リタル時日ヲ無効ニシ更ニ三ケ年ヲ經サレハ時効ノ成就セサルヲ云フ時効ハ前節説キタル如ク請求ヲ怠リタル權利者ヲ懲ラシムル趣意ヨリ設ケタル規定ナレハ權利者カ怠リナク請求スル片ハ已ニ過キ去リタル時日ヲ無効ニスルハ言ヲ竣タス而シテ中斷ノ場合ハ左ノ如シ

第一、爲替訴訟ヲ起シタル片 此訴訟手續ハ民事訴訟法第四

百九十四條乃至四百九十六條ニヨルヘキモノナリ詳細ハ後ノ手形責任ノ節ノ終ニ説クヘシ

第二、公示催告ノ手續ヲ爲シタル片 此手續モ後章ニ説クヘシ

第三、商法第千二十三條ニヨリ破産者ニ對スル債權ノ届出ヲ爲シタル片(參者)裁判所ニ於テ破産ノ決定スルトキハ同時ニ其時ニ其破産者ニ對スル債權ヲ有スル者ハ債權ノ届出ヲ爲スヘキ旨ヲ公衆ニ催告スルモノナリ此時債權者ハ債權ノ届出ヲ爲スヘキモノナリ(商法第千二十三條)

### 第三款時効ノ消滅

時効ノ消滅トハ手形ノ時効カ民事上ノ時効(本邦ニハ現行民法ナキニ付時効ナシ故ニ出訴期限規則ノ期限ヲシテ)ニ變更シ手形ノ時効消滅スルヲ云フ而シテ消滅スル原因左ノ如シ

第一 裁判所ノ判決 権利者カ爲替訴訟ヲ起シ被告ハ手形金ヲ  
 支拂フヘシトノ判決アリテ此判決確定セシトキハ此日ヨリ  
 手形ノ時効消滅シ判決執行ニ付テノ時効發生ス而シテ此期  
 限ハ五ケ年ナリ故ニ五ケ年間判決執行セサルキハ判決ハ無  
 効ト爲リ從テ請求權利モ消滅ス其執行期限規則ハ左ノ如シ  
 參照明治十一年三月十一日司法省丁第九號達裁判執行ノ出  
 訴期限ハ出訴期限規則第三條ニ準據シ五ケ年タルヘシ  
 第二義務者カ爲替義務ヲ認メ新規借用証書ヲ作りタルトキ  
 此場合ハ手形上ノ義務消滅シ民事上普通ノ貸借ノ權利關係  
 トナリテ義務發生ス而シテ此期限ハ出訴期限規則ニヨリ五  
 ケ年ナリ 參照明治六年十一月第三百六十二號布告出訴期限  
 規則第三條期限ヲ定メタル貸付金及利息アレハ其利息

以上説キタル如ク時効ハ請求權ヲ失ハシムルモノニ付三ケ年  
 間ノ期限ヲ過キ去リタル後ハ手形所持人カ振出人、支拂人裏書  
 人ニ對シ請求スルコトヲ得ス然レニ變例トシテ爲替資金(資取トハ  
シテ振出シムル爲メ振出人ヨリ引渡  
シタル金額ヲ云フ尙ホ後ニ詳述ヘシ)ニ限三ケ年後ト雖モ請求スルコトヲ得  
 ヘシ之ヲ詳言スルニハ支拂人カ爲替資金ヲ振出人ヨリ受取リ  
 タルモ未ダ支拂ハサル爲替金又ハ振出人ヨリ一度支拂人へ回  
 金セシモ請求權カ時効ニヨリ消滅シタルニ付取戻シタル爲替  
 資金若クハ裏書讓渡人其手形ヲ使用シタル爲メ(此場合ハ振出人カ自  
己ヲ受取人トナシ手  
形ヲ振出シ之ヲ他人ニ裏書シ爲替代  
金取得セシコト以テ裏書人ハ利益セリ)利益シタル場合ニ於テハ時効ニヨリ  
 權利ヲ失ヒタル者ヨリ此等ノ者ニ對シ爲替資金ノ請求ヲ爲ス  
 コトヲ得ヘシ此規定ノ理由ハ如何夫レ手形ノ期限ハ僅カニ三  
 ケ年ノ短期ナルヲ以テ取引頻煩ナル商人ニ在テハ不知不諱此

期限ヲ過キ去リ確實ナル權利ヲ失フコトハ往々在リ得ヘキナリ是レ畢竟其人ノ不注意ヨリ生シタル結果ナルカ故致方ナキ次第ナレモ之カ爲メ他方ニ不當ノ利益ヲ占ムル者アルニ至テハ善良ノ者ハ耐待セラレ不良ノ徒ハ優遇セラル、ノ奇觀ヲ呈スルニ至ルヘシ故ニ失權者タルニモ拘ハラズ資金ニ付テハ權利ヲ有セシムル所以ナリ

### 第二章 法律上ノ關係

爲替手形ハ其國內ノミナラス國外ヘモ轉輾流通スルモノナルカ故振出地ト支拂地トハ異ナルコト往々之アリ土地異ナルニ從ヒ手形ニ關スル法律モ多少ノ異同アルハ理ノ然ラシムル處ナリ左レハ如斯場合ニ於テ何レノ地ノ法律ヲ適用スヘキヤ之カ規定ヲ爲スハ必要ノ事ナリ例之日本大阪ノ甲者ヨリ佛國巴里

ノ乙者ニ宛手形ヲ振出シ之ヲ英國倫敦ニ於テ丙者ヘ讓渡シタリ丙者ハ期日巴里ノ乙者ニ支拂ヲ求メタルニ支拂ヲ拒ミタルヲ以テ日本ノ甲者ニ償還請求ノ爲メ手形ヲ送還スル如キ場合又英國倫敦ノ甲者ヨリ日本大阪乙者ニ支拂ヲ求メタルニ支拂ヲ拒ミタルヲ以テ英國倫敦ノ甲者ニ送還シテ償還請求スル如キ場合ニ於テ手形ノ關係ハ數國ニ涉ルヲ以テ何レノ國ノ法律ヲ適用スルヲ正當トスルヤ我商法第七百九條ニヨレハ此ノ如キ場合ニ適用スヘキ規則ヲ明瞭ニ定メラレタリ而シテ之ヲ三事項ニ別テリ第一手形ノ振出裏書引受等ノ義務ノ負擔ニ關シテハ手形ニ記載シタル地ノ法律ニ從ヒ若シ其地ヲ記載セサルハ債務者ノ住所ノ法律ニ從フモノト定メタルヲ以テ第一例ノ場合ニハ日本ノ法律ヲ適用シ又第二例ノ場合ニハ英國法律

ヲ適用スヘキモノナリ但振出地カ手形ニ記載シタルキニ限ル  
 若シ記載ナキハ支拂地ノ法律ニ據ルヘキモノ也故ニ各國ノ  
 如何ニ據リ或ハ時々手形ノ無効ト爲ルコトアルモノニ付手形  
 ニハ必ス振出地ヲ記スヘキモノナリ第二、履行ニ關シテハ履行  
 スヘキ地ノ法律ニ從フ此履行トハ履行スヘキ義務ヲ云フニア  
 ラス物件又ハ期日或ハ場所等總テ債務者(振出人支拂人  
 保証人ノ如シ)カ義務ヲ果  
 タスニ付其履行ニ係ル場合ヲ云フ例ヘハ支拂期日ガ一般ノ休  
 暇日ニ相當スルトキハ期日ノ前日ニ繰上クルトカ又ハ翌日ニ  
 延ハス如キ或ハ支拂フヘキ金員ニ定メナキトキハ日本法律ニ  
 從ヒ銀貨若クハ紙幣ヲ以テ授受スルカ如シ第三、權利行使及保  
 全ノ場合例ヘハ所持人カ支拂期日前支拂人ニ手形ヲ呈示シ又  
 ハ支拂人カ支拂引受セサルトキ振出人、裏書人、へ償還請求ノ通

知チナシ又ハ拒証書ヲ作ル等ハ其手續ヲ爲ス地ノ法律ニ從フ  
 モノナリ但手形ニ其地ヲ記入シタルキハ其地ニ據ル

第一節 手形上ノ責任

手形ノ信用ヲ益強固ニシ流通ヲ容易ニナラシムルニハ手形ニ  
 記名シタル振出人、支拂人、裏書人、保証人等ニ加重ナル責任ヲ負  
 ハシムルヲ可トス是レ法律上手形ノ記名人ハ連帶責任ヲ負擔  
 スルモノト定メタル所以ナリ而シテ此連帶義務ハ各義務者間  
 ニ特立ノモノニ付民法上ニ云フ所ノ連帶義務ノ如ク義務者互  
 ニ代理スルモノニアラス故ニ義務者ノ内一人ニ對スル爲替訴  
 訟ハ他ノ義務者ニ何ノ効チモ及ホサス之カ効力チ及ホサント  
 セハ必ス總義務者ヲ相手取り訴ヘサルヘカラス又時効ノ中斷  
 ナナサントスルニモ民法上ノ連帶義務ナルキハ義務者ノ内一

人ニ對シ訴ヲ起スルハ全体ノ義務者ニ對シ効力アルモ此連帶義務ハ總義務者ヲ相手取リ訴ヘサレハ義務者全体ニ對シ何ノ効力ナキモノナリ例之手形所持人支拂期日ヨリ一年ノ後ニ至リ支拂人ニ對シ爲替訴訟ヲ起スルハ其人ニ對シテ時効ヲ中斷シ已ニ過キ去リタル一ケ年ハ消滅シ更ニ三年ヲ經過セサレハ權利消滅セスサレモ振出人ニ對シテハ之ニ異リ二年ニテ權利消滅スルモノニテ結局同一手形ノ義務者ニシテ一人ハ二年又一人ハ三年ニテ失權スルコト、ナルヘシ此理由ハ振出人ニ對シテハ出訴セサルニ付時効中斷ナキヲ以テナリ故ニ支拂人ニ對シ出訴スルト同時ニ振出人ヲモ訴フヘキモノナリ但シ支拂人振出人又ハ裏書人歐人アル場合ニハ其内ノ一人ヲ相手取ルモ亦總員ヲ相手取ルモ權利者ノ隨意ナリ尙ホ責任ノコトニ付テ

ハ後ノ保証ノ節ニテ詳述スヘシ

參考ノ爲メ爲替訴訟手續ノ大要ヲ述フヘシ此訴ヲ起サントスル時ハ民事訴訟法第四百九十四條乃至第四百九十六條ノ規定ニ從ヒ支拂地ノ地方裁判所又ハ被告人住所ノ地方裁判所ニ出訴スヘシ又此訴狀ニハ爲替訴狀トシテ訴フル旨ヲ掲クルコトヲ要ス若シ之ヲ掲ケサルトキハ普通訴訟ト看做サルヘシ裁判所ニ於テ之訴ヲ許可スルモノトスルトキハ口頭辨論期日ヲ定ム而シテ其期日ト訴狀送達トノ間ニハ少クモ廿四時ノ存スルモノナリ尙ホ此訴訟ノ判決ハ確定セサルモ民事訴訟法第五百一條ニヨリ假執行ヲ爲スコトヲ得ルナリ

(假執行トハ財産ノ差押  
被債ヲ爲スヲ云フ)

此訴訟ト通常訴訟トハ何レカ便宜ナルヤ曰爲替訴訟ヲ便宜

トス夫レ通常訴訟ハ訴狀送達ト辨論期日トノ間ニ二十日間  
ヲ置カサルヘカラス又判決ヲ執行スルニハ上訴期限ヲ過キ  
判決確定セサルヘカラサル等時間ト手數ヲ要シ爲替訴訟ノ  
如ク簡便ナル能ハズ故ニ手形上ノ訴訟ハ爲替訴訟トシテ提  
起スルヲ便利ナリトス

### 第二節 手形ノ裏書

#### 第一款 裏書ノ解

裏書トハ手形受取人カ其手形ヲ他人ニ讓渡ステ云フ而シテ裏  
書ト云フ意ハ手形ヲ讓渡スニハ讓渡人カ手形ノ裏面ニ讓渡人  
讓受人ノ氏名ヲ記入スルヲ以テナリ然ラハ讓渡人ハ讓渡ノ爲  
メ爲替上ノ關係ヲ脱スルヤ如何曰ク讓渡ノ爲メ關係ヲ絶ツモ  
ノニアラス此場合ニ於テハ只支拂人ヲシテ自己ニ爲替ヲ支拂

ハシムル權利ヲ失フノミ然レモ振出人ニ對スル償還請求ノ權  
利ヲ失フモノニアラス讓渡人此權利ヲ有スルヲ以テ讓受人ヨ  
リ手形不拂ノ爲メ償還請求アルトキハ其義務ヲ履行セサルヘ  
カラス 以上述フル如ク手形ハ裏書ノ上何人ニモ讓渡ステ得  
ルモノナレモ振出人ハ裏書讓渡ヲ禁スル旨ヲ手形ニ記入スル  
コトヲ得然レモ所持人ハ此禁止アルニモ抱ハラヌ讓渡スコト  
ヲ得但此場合ニ於テハ禁止ノ旨ヲ記入シタルモノニ對シテハ  
償還請求權ヲ失フモノナリ(商法七百二拾二條)

#### 第二款 裏書ノ方式

手形ヲ裏書讓渡スニハ左ノ條件ヲ具フルコトヲ要ス(商法七百  
廿三條)

第一裏書年月日場所



第二裏書讓渡人ノ署名捺印

第三裏書讓渡人ノ氏名

若シ此裏書ノ日付カ實際ト異リ裏書前ノ日付ヲ記スルトキハ  
刑法上偽造變造ノ刑ニ處セラルヘシ此規定ハ破産者モ債權者  
ヲ害スル爲メ裏書以前ノ日付ヲ爲シ以テ財産ヲ隱匿スルカ如  
キ不正手段ヲ防クカ爲メナリ

以上述ヘタル如ク手形ハ(指圖式ノ手形)裏書ヲ爲サ、レハ讓渡スコト  
ヲ得サレモ或ル場合ニハ裏書ヲ爲サス只手形ノ引渡ノミニテ  
讓渡スコトアリ即無記名式(持參人拂)手形ノ場合及ヒ裏書讓渡  
人ノ署名捺印ノミニテ讓渡ス場合ナリ裏書書式ハ左ノ如シ

表面ノ金額買受人又讓受人ノ氏名何某殿

又ハ全人指圖人へ御支拂可被成候也

何 <small>府市町何番地</small>	何	賣渡人又讓渡人氏名某印
年月日	何	

裏書ノ順序ニ付一言スヘシ裏書讓渡ハ各讓渡人ヨリ各讓受人  
ニ至ル迄順次ニ連續スルコトヲ要ス若シ連續セサルトキハ裏  
書讓渡ハ無効ト爲ルヘシ例之甲者ヨリ乙者ニ乙者ヨリ丙者ニ  
丙者ヨリ丁者ニ讓渡シタルトキハ其裏書連續セサルヘカラス  
若シ裏書人中ノ乙者若クハ丙者ノ裏書ナキトキハ裏書ハ無効  
ナリ是レ盜奪又ハ詐欺ヲ防クカ爲メナリ

第三款 滿期日后ノ裏書讓渡

爲替手形ハ通例支拂期日迄ニ裏書讓渡スモノナレモ時効期限

ノ三年ニ滿タサル間ハ支拂期日后ト雖モ讓渡ヲ爲ストテ得ルナリ而シテ此讓受人ハ裏書人ノ權利及義務ヲ受繼クモノニ付裏書人ノ有セシ權利ヲ實行スルハ勿論其人ノ負擔セシ義務ヲモ果スヘキモノナリ故ニ讓受人ハ支拂ノ引請人ニ對シテ請求スルコトヲ得ルハ勿論裏書人カ已ニ拒証書ヲ作り振出人等ニ通知シアリタル片ハ讓受人及ヒ裏書人等ニ對シテ手形金ノ償還ヲ請求スルヲ得但シ支拂期日后數度ノ裏書讓渡アリテ其レヨリ讓受ケタル者ハ自己以前ノ裏書人等ニ對シテハ獨立シテ手形金償還請求權ヲ有スル故ニ普通ノ手續即チ支拂人カ支拂ヲ拒ミタルトハ拒証書ヲ作り通知ヲ爲ス等ノ手續ヲ要セス

第四款 代理ノ爲メ又ハ担保ノ爲メナル裏書

第一項 代理ノ爲メノ裏書

代理ノ爲メノ裏書ハ代理人ヲシテ爲替金請求等ノ事ヲ處理セシムル爲メノ裏書ナリ而シテ此裏書ニハ必ス代理タル旨ヲ明記セサルヘカラス若シ明記セサル片ハ裏書人ト代理人トノ間ニ如何ナル特約アルモ此約束ハ他人即チ振出人支拂人其后ノ讓渡人ニ對シテハ代理裏書ノ効力ナシ故ニ代理人カ此手形ヲ他人ニ讓渡シ讓受人其情ヲ知ラサルトハ第一ノ裏書人ハ(眞ノ者)讓受人ニ對シ取戻ヲ求ムルコトヲ得ス又代理ノ裏書ハ所有權ヲ讓渡スモノニアラサルヲ以テ裏書人ハ之ヲ代人ニ讓渡スコトヲ得ヘシ

第二項 擔保ノ爲メノ裏書

擔保ノ爲メノ裏書ハ手形所有人が其債權者ニ手形ヲ質入トシ

テ引渡ストキ爲ス裏書ヲ云フ而シテ讓受人ハ裏書人ト同一ノ  
 權利ヲ有シ義務ヲ負担スルモノニ付支拂ノ請求ヲ爲シ又ハ手  
 形不拂ノ時拒証書ヲ作り償還請求ヲ爲スヲ得然レモ讓受人ハ  
 辨濟期限ヲ過キ辨濟ヲ受ケサル場合ニアラサレハ此手形ヲ他  
 人へ眞ノ讓渡ヲ爲スヘカラス故ニ辨濟期限中ハ手形ノ所有權  
 ハ依然裏書人ニ存スルモノナリ左レモ辨濟期限ヲ經過スルモ  
 辨濟セサルモハ債權者ハ之ヲ他人ニ讓渡シ債務ノ辨濟ニ充ツ  
 ルヲ得ルヲ以テ此規定ハ債權者ニ一大便益ヲ與フルモノナ  
 リ又裏書モ代理ノ爲メノ裏書ノ如ク手形ノ所有權ノ移轉スル  
 モノニアラス蓋シ担保ハ負債ノ保證ヲ爲スモノニテ所有權ヲ  
 移轉スル方法ニアラサレハナリ

### 第三節 手形ノ引受

#### 第一款 引受ノ解

手形ノ引受トハ支拂人カ手形所持人ニ對シ支拂期日ニ手形金  
 ノ支拂ヲ承諾スルヲ云フ而シテ手形所持人カ此引受ヲ求ムル  
 ニハ支拂期日前ニ一應手形ヲ支拂人ニ呈示セサルヘカラス但  
 引受ヲ求ムルコトハ所持人ノ義務ニアラサルヲ以テ之ヲ爲ス  
 ト否トハ隨意ナリ然レモ手形ニ引受アルトキハ其手形ノ支拂  
 確實ナルヲ以テ融通ノ圓滑ナルノミナラス期日ニ至リ支拂ヲ  
 請求スルノ權利ヲ得ルノ利益アリ故ニ支拂ノ引受ヲ求ムルハ  
 尤モ必要ノコトナリ(商法七百三十四條)然レモ法律上引受ケノ爲呈示スヘ  
 キ義務アル場合アリ即チ一覽後定期拂ノ爲替手形ノ場合之レ  
 ナリ此所持人ハ呈示期限カ二ケ年ヨリ短キ期限アルトキハ其  
 期限内若シ期限ノ記載ナキトキハ日付后遅クモ二ケ年内ニ引

受ノ爲メ手形ヲ支拂人ニ呈示スヘシ若シ呈示セサルハ振出人及ヒ裏書人ニ對シ償還請求權ヲ失フヘシ(商法七百三十五條)然ル所以ハ蓋シ一覽后定期拂ノ手形ハ呈示ノ日ヲ以テ支拂期日計算ノ始メト爲スニ付呈示スルコトハ肝要ナリ然ルニ此呈示ヲ所有人ノ隨意ニセシカ數十年后ニ至リ呈示スルコトアリテ手形ノ關係ヲ永久終了セサルコト、ナリ手形ノ精神ニ矛盾スルヲ以テ此ノ如ク制限ヲ爲シタルモノナラン以上説キタル如ク或ル場合ヲ除キ所持人ハ引受ノ爲メ手形ヲ呈示スヘキ義務ナキモ權利アルモノトス然レモ振出人ハ明言シテ所持人ニ呈示ノ義務ヲ負ハシムルコトヲ得ヘシ左ニ詳述スヘシ

第一、所持人カ引受ノ爲メ手形ヲ呈示スルヲ要セサル場合」此場合ハ通例金額ノ僅少ナル手形又ハ支拂期限ノ短キ手形或ハ

拒証書ヲ作ル費用ヲ省ク爲メ其旨券面ニ記載スルモノナリ

第二、引受ノ爲メ呈示スヘキ義務ヲ負ハシムル場合」此場合ハ振出人ハ所持人ニ於テ引受ノ爲メ其手形ノ呈示ヲ爲スヘク若シ爲サ、ルハ償還請求權ヲ失フ旨ヲ記載シタル場合ナリ故ニ所持人カ解意ニヨリ呈示セサルハ振出人又ハ裏書人等ニ對シ償還ノ請求スルコトヲ得ス此規定アル所以ハ手形ニ引受アルハ支拂確實トナリ完全ノ流通力ヲ有セシムルト且ツ所持人カ呈示ヲ延引スル爲メ支拂人ニ於テ爲替資金ヲ紛失スル等ノ(譯言スレハ支拂人カ振出人ヨリ爲替資金ヲ受取リ之ヲ受取人ニ支拂ハサル内破産セシトキハ手形金ヲ支拂フ能ハス)コトナカラシムルニ在リ尙ホ引受ヨリ生スル結果ニ付キ少ク説述スヘシ支拂人一旦引受ヲ爲ストキハ爲替資金ヲ振出人ヨリ受取リタルト受取ラサルトニ拘ハラス支拂期日ニ至レハ所持人ニ支拂ヲ爲サ、ル

ヘカラス此時ニ方リ實際振出人ヨリ爲替資金受取ラサル理由  
 ナ以テ支拂ヲ拒ムヲ得ス又支拂人カ引受ノ旨ヲ記シ手形ヲ返  
 還シタル后ハ如何ナル事實アルモ之ヲ取消スヲ得ス但暴行詐  
 欺ニヨリ引受ヲ爲シタル事實后日發見シタルキハ引受ヲ取消  
 スコトヲ得然レモ已ニ情ヲ知ラサル他人カ其手形ヲ讓受ケ所  
 有スルトハ此者ニ對シ不正ノ原因ニ基キタル理由ヲ主張シ支  
 拂ヲ拒ムヲ得ス例之甲者ヨリ乙者ニ宛テタル爲替手形ノ所持  
 人丙者カ支拂期日前乙者ニ引受ヲ求メタルニ乙者之ヲ拒ミタ  
 リ於是丙者惡意ヲ生シ乙者ニ暴行ヲ加ヘ引受ヲ爲サシメ而シ  
 テ此手形ヲ情ヲ知ラサル丁者ニ裏書讓渡シタリ此場合ニ於テ  
 乙者ハ丙者ニ對スル引受無効タルモ丁者ニ對シテハ引受ヲ無  
 効ト爲スヲ得ス故ニ丁者ニ對シテハ支拂ヲ爲サ、ルヲ得ス然

レモ丙者ニ對シテハ損害請求ノ權利ヲ有スルモノナリ

第二款 引受ノ方式

支拂人カ手形ノ引受ケヲ爲レタルキハ爲替手形ニ引受ケノ旨  
 ナ記シ署名捺印スヘシ然レモ署名捺印ノミヲ爲スモ可ナリ

引受ケノ書式

本手形金額期日ニ至リ無相違支拂可申候也

年月日 住所 姓名印

特別引受ニ付説述スヘシ引受ハ通例手形ヲ呈示シタルキ支拂  
 人ニ於テ直ニ支拂ノ義務ヲ承諾スルモノナリ然レモ或ハ時ニ  
 即日引受ヲ爲サス又ハ條件(例之其源借カ米國榮港ヨリ神戶港へ到着セハト云フカ加シ)若クハ其他ノ制  
 限(例之支拂期日ヨリ幾日ノ后支拂フト云フ如シ)ヲ以テ特別引受ヲ爲シタルトキ之ヲ承諾ス

ルト否トハ所持人ノ自由ナリ然レモ特別引受人ト此時ヨリ支拂義務ヲ負担スルモノナリ而シテ所持人ニ於テ特別引受ヲ承諾セサルキハ拒証書ヲ作り振出人及ヒ各裏書人ニ對シ償還請求ヲ爲スヘシ若シ償還ヲ得サルキハ此特別引受ヲ爲シタル支拂人ニ對シ請求スルコトヲ得

### 第三款 引受拒絶

所持人カ支拂人ニ爲替ノ引受ヲ求メタルニ即日引受ヲ爲サス又ハ引受ヲ爲スモ條件若クハ其他ノ制限ヲ付シタルトキ或ハ全部ノ内一部ノミ引受ヲ爲シタルトキハ所持人ハ引受ヲ拒ミタルモノトシ拒証書ヲ作り遅延ナク振出人又ハ裏書讓渡人ニ通知セサルヘカラス尤モ之ニハ區別ヲ爲シテ詳述スヘシ

(商法七百三十四條  
全 十百三十五條)

第一 引受ノ爲ノ手形呈示ヲ所持人ノ隨意トナシタルトキハ支拂人カ引受ヲ拒ミタリトテ拒証書ヲ作ラサルヘカラスアルモノニアラス又作リタリトテ不可ナシ

第二 手形呈示ヲ義務ト爲シタルトキハ引受ヲ拒メハ其翌日拒証書ヲ作ルヘシ

第三 一覽後定期拂ノ手形ハ支拂人カ引受ヲ拒ミ若クハ引受ノ日付ヲ爲スコトヲ拒ムトキハ拒証書ヲ作ルヘシ若シ之ヲ作ラサルトキハ振出人及裏書人ニ對シ担保ヲ求ムルヲ得サルナリ

以上述ヘタル如ク支拂人カ引受ヲ爲サハルニヨリ拒証書ヲ作りタル場合ニ於テハ爲替ノ支拂不確實ニ爲リタルヲ以テ所持人ハ振出人又ハ裏書讓渡人ニ對シ期日支拂フコトハ付テノ拒

保ヲ差出サシムル權利ヲ有ス又各裏書人モ所持人ニ担保ヲ爲シタルト否トハ問ハス自己以前ノ裏書人又ハ振出人ニ對シ担保ヲ請求スル權利ヲ有ス而シテ振出入及數人ノ裏書護渡人アルトキハ其内ノ一人ニ爲シタル拒証書作成ノ通知及一人カ受ケタル担保ハ其後者ニ對シ効力アルニ付其后ノ者ニ對シ通知ヲ爲シ又ハ担保ヲ爲ス義務ナキモノナリ仮之甲者ノ振出シタル手形ニ乙丙丁ノ裏書アルトキ所持人カ乙ニ拒証書ノ通知ヲ爲シタルトキハ丙丁ニ通知セサルモ通知シタルト同一ノ効力アリ又乙ヨリ担保ヲ供シタルトキハ丙丁ハ担保ヲ供セサルモ担保ヲ爲シタル効力アリ故ニ振出人甲カ担保ヲ供セシトキハ乙丙丁ハ担保ヲ供セサルモ甲ト同一ノ効力アリ 振出人及裏書護渡人ハ担保ヲ供スル義務アルトハ以上ハ述ヘタル如クナル

モ若后日ノ紛争ヲ避ケンカ爲メ替爲金額及費用ヲ支拂ヒ又ハ供託所ニ供託(預ケ金ノ意味)シテ担保ヲ供セサルコトヲ得ヘシ

參照 供託規則(二十三年勅令百四十五號抜萃)

第一條法律ノ規定ニヨリ供託スル所ノ金錢有價証券ハ

總テ大藏省預金局ニ於テ之ヲ保管スヘシ

供託物取扱規定(二十六年大藏省令第二十一號抜萃)

第一條供託物ノ保管受渡ハ金庫ニ於テ扱フ第二條供託者ニ於テ金錢有價証券ヲ寄託セシトスルトキハ其物件ニ左ノ事項ヲ記載シタル第一号書式ノ供託書二通ヲ添ヘ金庫ヘ差出スヘシ

但金錢ト有價証券トハ各別ニ供託書ヲ調製スヘシ

(一) 供託者ノ住所氏名若シ代人ヲ用ユルトキハ尙ホ代人

ノ住所氏名(二)金銀ハ其金額有價証券ハ其種類記番号券面ノ金額枚數(三)供託ヲ爲スヘキ法律ノ條項供託ノ事由但裁判中ノ事件ニ係リ供託ヲ爲ストキハ尙ホ其件名及裁判所名ヲ記スヘシ(四)年月日

第三條金庫ニ於テ供託書ヲ受ケタルトキハ其物件ヲ供託書ニ照シ之ヲ受領シ其一通ニ受領ノ旨記載捺印シ供託者ヘ交付スヘシ

第四條供託者ハ郵便ヲ以テ寄託スルヲ得 前項ノ場合ニ於テ金銀ハ寄託スヘキ金庫所在地ノ銀行又ハ郵便局ニ於テ相渡スヘキ送金手形若クハ爲替券等ヲ以テ寄託スルコトヲ得

第十條供託物全部拂戻ノトキハ與書ヲ爲シタル受領証

ヲ差出スヘシ

(第一號書式) 用紙美濃紙

供託書 (金銀ト有價証券トハ各別ニ製スヘシ)

供託者 何 某

一金何 圓也

又ハ一何公債証券額面何圓也 何番ヨリ何枚

又ハ一何銀行株券額面何圓也 全全 全

供託ヲ爲スヘキ法律ノ條項

供託ノ事由

裁判中ニ係ルモノハ其件名及裁判所名前書ノ物件寄託致度此段請求候也

右何

某印



何本金庫御中

何号

右受領ス

年月日

何金庫印

(奥書ノ書式)

前書物件正ニ領收候也

住取人

何

某印

何金庫宛

請求書

今般何々ノ事由ニヨリ第何号供託受領証ノ物件返戻相  
成度請求候也

年月日

供託者

何

某印

何金庫宛

振出人又ハ裏書人カ爲替金額及費用ヲ支拂ヒタルキハ所持人ニ對シ裏書讓渡ヲ求メ且ツ手形ト共ニ受取証ヲ記シタル償還計算書ヲ受取り置クモノトス(商法七百四十二條)然ル所以ハ此支拂ヒナ爲シタル裏書人又ハ振出人ハ後日自己以前ノ裏書人又ハ振出人ニ對シ償還請求ヲ爲ストキ其證據トシテ必要ナルニヨル尙担保寄託ノ消滅スル場合ヲ述フヘシ夫レ担保及寄託ヲ爲スハ支拂人カ引受ケセラルル支拂ヲ保證スル爲メ必要トスルモノナレニ其後支拂人カ支拂ノ引受ヲナシタルキ又ハ爲替金額若クハ償還金額(裏書讓渡人又ハ振出人カ其後者ニ支拂タル金額)ヲ支拂ヒタルキ又ハ所持人カ支拂期日ヨリ三年間請求セサルヨリ時効ニ罹リ若クハ拒証書ヲ作ラサル爲メ手形上ノ權利ヲ失ヒタルキハ担保寄託ヲ爲ス

必要ナキヲ以テ其担保寄託ハ消滅スルモノナリ故ニ此場合ニ  
ハ担保又ハ寄託物ハ返還セサルヘカラス然レモ担保寄託物ヲ  
保存スル爲メ費シタル金額ハ手形ノ債務者ノ負担トス(商法七百四十一條)

#### 第四款 榮譽引受

支拂人カ引受ヲ拒ミタル爲替手形面ニ支拂地ニ現住セル豫備  
支拂人ヲ掲ケアルトキハ所持人ハ其手形ヲ拒証書ト共ニ引受  
ノ爲メ豫備支拂人ニ呈示スヘシ(商法第七百四十三條)若シ豫備支拂人記載ナ  
キトキハ振出人又ハ裏書人ニ對シ償還請求ヲ爲スヘキモ支拂  
人及ヒ他人カ(爲替ニ關  
係ナキ者)振出人又ハ裏書人ノ榮譽ヲ維持スル爲メ  
引受ケテ爲スコトヲ得之ヲ榮譽引受ト云フ然レモ所持人ハ此  
引受ヲ許諾スルノ義務ナキヲ以テ若シ引受人ノ資産充分ナラ  
サルカ又ハ信用ナキ者ト認ムルトキハ之ヲ排斥スルヲ得ヘシ

爰ニ一言スヘキハ支拂人カ榮譽引受ヲ爲スノ一事ナリ引受人  
カ榮譽引受ヲ爲ストハ頗ル奇異ノ思ヲ爲スモ熟考スルトキハ  
一理アルヲ發見スヘシ夫レ支拂人カ支拂ヲ引受クル時ハ爲替  
資金ヲ振出人ヨリ受ケタリト看做サル、モノニ付支拂期日ニ  
至レハ實際受取ラサルモ支拂ヲ爲サザルヘカラス然ルニ榮譽  
引受ヲ爲ストキハ斯ノ如キ不利ノ推測ヲ受ケス單ニ振出人又  
ハ裏書人等ノ名譽ヲ思フヨリ信義上引受ケタリト見做サル、  
ヲ以テ責任ノ点ニ於テ輕重ノ差アリ是レ支拂人カ榮譽引受人  
ト爲ル規定ヲ爲シタル所以ナリ  
又榮譽引受人數人アルトキハ其數人ニ榮譽引受ヲ許スヘキヤ  
如何此場合ニハ最モ多數ノ義務者ノ榮譽ノ爲メニ引受クル者

ニ榮譽引受ヲ許ス例之甲乙丙丁ノ榮譽引受人アリ甲ハ振出人ノ爲メ乙ハ第一ノ裏書人ノ爲メ丙ハ第二ノ裏書人ノ爲メ丁ハ第三ノ裏書人ノ爲メ榮譽引受ヲ爲シタルキハ甲ヲ榮譽引受人トス何トナレハ甲ハ手形義務ニ付テハ最后ノ責任者タレハ之カ榮譽引受ケアルトキハ其后ノ義務者ノ責任ハ消滅スレハナリ

榮譽引受ノ方式ハ榮譽引受人カ爲替手形ニ「支拂期日支拂人カ支拂ヲ爲サ、ルトキハ相違ナク支拂フ旨ヲ記シ署名捺印ス加之拒証書若クハ其附箋ニモ記載スルモノナリ

終リニ榮譽引受ノ結果ヲ述ヘン(一)豫備支拂人カ引受ノ承諾ヲ爲スカ又ハ榮譽引受人カ引受ヲ爲シ所持人之ヲ許諾シタルトキハ受榮譽者タル各裏書人振出人ハ担保ヲ供スル義務ヲ免カ

ル、モノナリ何ントナレハ此場合ニ於テハ手形ノ支拂確實ニ  
ナリタレハナリ例之前例ノ甲者ニ榮譽引受ヲ許諾シタルトキ  
ハ乙丙丁ハ担保ヲ供スルノ義務ナキカ如シ(二)又榮譽引受ハ支  
拂人カ支拂ヲ引受サルキ振出人等ノ榮譽ノ爲引受ヲ爲スモ之  
ト全時ニ義務ヲ履行スヘキモノニアラス支拂人カ支拂期日ニ  
支拂ヲ爲サ、ルキ始メテ爲替金額ヲ支拂フ義務アルモノナリ

#### 第四節 手形ノ保証

手形ノ保証トハ手形ニ關係ナキ他人カ手形ノ支拂ヲ担保スル  
謂ニシテ此他人ヲ手形保証人ト云フ而シテ此保証人ハ裏書讓  
渡人又ハ振出人ト共ニ連帶義務ヲ負フモノナリ此点ハ民事上  
ノ保証人ト異ルモノナリ民事上ノ保証人ハ主タル債務者ニ於  
テ義務ヲ果サ、ルキ始メテ義務ヲ盡スヘキモノタリ之ニ反シ

手形ノ保証ハ始メヨリ連帶義務ヲ負フモノナリ故ニ手形所持人ハ支拂引受ヲ拒マレタル片ハ他ノ裏書人又ハ振出人ヲ措キ第一ニ保証人ニ向ツテ請求ヲ爲スヲ得ヘシ此場合ニ保証人ハ不服ヲ云フコトヲ得ス「手形保証人ト爲ルニハ何人ニテモ商ヲ爲ス得力ヲ有スル者ナレハ差支ナシ但シ手形支拂ノ義務アルモノハ保証人タルヲ得ス

此保証ト手形ノ支拂ヲ保証スル爲替ノ義務者トハ同一ニ見ルヘカラス其支拂ヲ保証スル者トハ即チ振出入裏書譲渡人支拂引受人豫備支拂人榮譽引受人等ヲ云フ此者等ハ爲替契約ニヨリ義務ヲ負担シタル者ニ付手形上連帶義務者タルハ當然ナルモ本節ニ云ヘル保証人ハ手形ニ何等ノ關係ナキモ自ラ進ンテ氏名ヲ書添ヘタルヨリ連帶義務者ト爲ルモノニ付二者差別アリ

手形保証人ハ振出人裏書人引受人中何レノ爲メニモ保証人ト爲ルヲ得然レモ何等ノ爲メナルヤヲ知ルニハ署名ノ場所ニヨリ決セサルヘカラス例之裏書人ノ傍ラニ署名シタルトキハ裏書人ノ保証トシ又振出人ノ傍ラニ署名シタルハ振出人ノ保証ト爲スモノナリ

手形保証ハ手形面ニ氏名ヲ書添ヘ又ハ別ノ書面ヲ以テ約束スルヲ得例之振出人ノ傍ラニ「保証候也」ト記スルカ又ハ公正証書若クハ私成証書ニ手形ノ全文ヲ掲ケ保証スル旨ヲ記シ署名捺印スルヲ云フ

以上述フルカ如ク保証義務ハ手形上ノ義務者ト連帶責任ナルモ手形所持人ト特約ノ上責任ヲ減輕スルハ差支ナシ然レモ此

特約ハ契約者双方ノ間ニ止リ契約外ノ人ニ對シテハ無効ナリ  
例之手形所持人ナル甲者カ保証人ナル乙者ト契約ノ上述帶義  
務又ハ義務ノ一部分ヲ免除スルノ特約ヲ爲シタル后此手形ヲ  
丙者ニ讓渡シ丙者カ保証人乙者ニ對シ手形金全部ノ請求ヲ爲  
シタルトキハ保証人ハ甲者トノ特約アルヲ以テ全部ノ義務ヲ  
履行スヘキモノニアラサル抗辨ヲ爲スコトヲ得ス何ントナレ  
ハ其特約ハ丙者ニ對シ効力アラサレハナリ

第五節 手形ノ支拂  
第一款 支拂ノ解

手形ノ支拂ハ爲替上ノ義務ヲ消滅スル方法ナリ手形法ニテハ  
此方法ハ僅カニ支拂ト時効トノ二ニ過キサルモ民法上ニ所謂  
義務ノ更改(例之甲債務者カ乙債務者ニ替ハリ又ハ賣掛代金ヲ手形ニ改ムル等)相殺(差引勘定ノ意)免除(債務者ヨリ義務ヲ免スル意)モ手形義

務ヲ消滅スルモノナリ

支拂ヲ受クル手續、手形所持人カ支拂ヲ受ケントスルニハ支  
拂人カ己ニ引受ヲ爲シタルト否トヲ問ハス支拂期日ニ支拂人  
ノ方ニ至リ手形ヲ呈示シ手形引換ニ金額ヲ受取ルヘキモノナ  
リ故ニ爲替ハ普通民事上ノ貸借ノ關係トハ異ナリテ期日ニハ  
債權者(手形所持人ノ權利者ナリ)ヨリ進ンテ支拂ヲ請求セサルヘカラス債務者  
(支拂人ハ債權者ナリ)ハ爲替金ヲ持參スル義務ナキモノナリ然ル所以ハ手  
形ハ何人ノ間ニモ轉讓流通スルモノニ付往々所持人ヲ知ル能  
ハサルモノナレハ債務者ニ持參スル義務ヲ負ハシムルモ何ノ  
効用モナキニ至ルコトアレハナリ但一ノ特例アリ即他所拂ノ  
手形ハ引受人ニ呈示シ始メテ支拂期日確定シ且ツ支拂人ノ住  
所外ニ於テ支拂ヲ爲スヘキモノナレハ支拂人ノ住所ニ於テ支



拂ヲ受クルコトヲ得ス故ニ支拂人ノ方ニ呈示スヘカラス  
 支拂期日ハ猶豫ヲ許サ、ルモノナレモ土地ノ慣習ニヨリ毎月  
 何回ヲ支拂日ト爲スノ定メアルルキハ之ニ從ハサルヲ得ス又支  
 拂期日カ一般ノ休暇日ナルトキハ其次ノ業日ヲ以テ支拂期日  
 トス又一覽拂手形ハ支拂期日ノ定メアラサルヲ以テ所持人カ  
 手形呈示ノ日ヲ以テ支拂期日トス若シ日付后二ケ年内ニ呈示  
 タ爲サ、ルルキ又二ケ年内ノ呈示期間ノ定メナキトキハ日付后  
 二ケ年ヲ以テ支拂期日ト爲スヲ以テ此期日ニ呈示セサルヘカ  
 ラス若シ此期日ニ呈示ヲ爲サ、ルトキハ所持人ハ振出人及妻  
 書讓渡人ニ對スル償還請求權ヲ失フモノニ付所持人ハ支拂期  
 日ニ注意シ決シテ怠慢アルヘカラス  
 爰ニ重要ナル疑問アリ

第一問 所持人カ正當ノ時期ニ手形ノ呈示ヲ爲サ、ルトキハ  
 償還請求權ヲ失フコトハ以上述ヘタルカ如シ然ラハ支拂人ニ  
 對スル請求權モ呈示セサル爲メ消滅スルモノナリヤ曰ク此請  
 求權ハ二ケ年ノ終リノ日ヨリ起算シ時効期限ノ三年ヲ經過セ  
 サル間ハ消滅スルモノニアラス  
 第二問 呈示期限ノ二ケ年ヲ過キタル后支拂人カ支拂ヲ拒ミ  
 タルトキハ請求權ナキカ如シ如何曰ク此場合ハ爲替請求スル  
 權利ナキモ第七百十四條ニヨリ支拂人カ爲替資金ヲ不當ニ利  
 得シ居ルトキハ取戻シノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘシ而シテ此手  
 續ヲ爲スニハ普通ノ訴訟手續ニ依ルモノニシテ簡便ナル爲替  
 訴訟ニ據ルヘカラス  
 又所持人ハ支拂期日支拂ヲ受クル權利アルモ其期日前支拂ヲ

受クル義務ナシ左レモ實際ハ往々支拂人ヨリ期日前支拂ヲ爲スコトアリ此支拂ト雖モ有効ナルハ相違ナキモ若シ期日前支拂ヲ爲シタル爲メ損害ノ生シタルトキハ其損害ハ支拂人ノ負担トス(前法七百五十九條)例之變造手形又ハ盜取セシ手形所持人ニ期日前支拂ヒタル后期日ニ至リ眞ノ所持人カ支拂ヲ求メタルモニ於テハ支拂人ハ已ニ支拂ヒタル旨ヲ主張シ拒ムヲ得ス此場合ニ於テハ支拂人其損害ヲ負担セサルヘカラス然ル所以ハ變造手形又ハ盜取手形等ハ期日前ニハ容易ニ發見スル能ハサルモノニ付之ヨリ生スル損害ハ期日前支拂ヒタル者ニ於テ担当スルハ當然ナルニヨル

以上述フルカ如ク支拂期日ニハ所持人ヨリ手形ヲ呈示セラル、ヲ以テ支拂人ハ手形ヲ支拂ヒ義務ヲ消滅スルヲ得ルモ若シ所持人カ期日ニ至ルモ故ナク手形金ヲ受取ヲサル片ハ如何ニスヘキヤ此場合ニ支拂人ヲ保護スルノ規定ナクハ支拂人ハ徒ラニ費用ト危険トヲ負担セサルヘカラサルノ不幸ヲ被フルニ至ルヘシ此故ニ手形法第七百五十八條ハ支拂人ニ爲替金額ヲ供託處ヘ預入レ責任ヲ免ル、コトヲ得云々規定セリ故ニ此場合ニ支拂人ハ直ニ供託ノ手續ヲ爲サ、ルヘカラス而シテ供託ノ后ハ之レヨリ生スル費用及ヒ危険ハ所持人ノ負担トス

## 第二款 支拂ヲ受クル手續

所持人ハ手形ノ裏面ニ受取証ヲ記入シ之ト引換ニアラサレハ支拂ヲ受クルコトヲ得ス而シテ爲替金ノ全部ニアラスシテ一分ノ支拂ト雖モ之ヲ拒ムヲ得ス此場合ニハ手形ニ其支拂ヲ記入シ且ツ別ニ受取証ヲ支拂人ニ渡スヘシ一分ニテモ受取ヲサ

ルヘカヲサル所以ハ償還義務者ニ利益アルニ依ル例之ハ所持人ヨリ振出人又ハ裏書讓渡人等ニ對シ償還ヲ請求スル場合ニ於テ一分ニテモ所持人ニ受取リアルトキハ振出人又ハ裏書讓渡人等ハ其部分ニ付キ債務ヲ免ル、ヲ以テナリ

又一個ノ爲替ニ付數通ノ手形ヲ振出シアルトキハ支拂人ハ其内一通ノ支拂ヲ爲シ以テ全体ノ義務ヲ免ル、モノトス然レモ別ニ支拂人ノ引受又ハ裏書アル手形ヲ所有スル者ニ對シテハ其責ヲ免ル、コト能ハス例之振出人カ受取人ノ請求ニヨリ一個ノ爲替ニ付第一号第二号第三号ノ三通ヲ振出シタルトキハ其内ノ一通ニ對シ支拂ヲ爲ストキハ其他ノ二通ニ對スル義務ヲ免ル、モノトス然レトモ引受ヲ記シタル手形ト引受ナキ手形トアリタルトキ引受ナキ手形ニ對シ支拂ヲ爲シタルトキハ

引受アル手形ノ所持人又ハ裏書讓受人ニ對シテハ手形ノ義務ヲ免ル、能ハス(商法七百六十二條)

又此數通ノ手形ノ内一通ヲ他人ニ預ケ置キ其引渡ヲ請求スル如キ又ハ引受ヲ記載シタル手形ヲ盜取セラレ又ハ紛失シタルトキ之ヲ無効ニナス手續(公示催告手續)ハ第七百十條第七百十一條ニ依リ此場合ニモ爲サ、ルヘカラス但シ數通ノ手形ノ中ニテ引受ケヲ記載セサルモノニ對シテハ所持人ヨリ担保ヲ差出サ、レハ支拂ヲ爲ス義務ナシ又引受ヲ記シタル手形數通アル場合ニ之ヲ合シテ引渡サル、片モ支拂ヲ爲ス義務ナシ然ル所以ハ后日二重ノ支拂ヲ爲スガ如キ危険ヲ豫防スル趣意ニ外ナラス尙ホ支拂人カ手形所持人ニ支拂ヲ停止スル場合ニ付一言スヘシ

引受人ハ支拂期日又ハ其后ニ於テ正當ナル所持人ニ對シ支拂  
ヲ爲スノ義務アルモ左ノ場合ニ於テ裁判所ノ差押命令アルト  
キハ支拂ヲ停止セサルヘカラス故ニ裁判所ノ命令アルニアラ  
サル以上ハ如何ナル場合ト雖モ停止スヘキモノニアラス(商法  
七百  
六十四條)但眞ノ手形ノ所有者ヨリ故障アルトキハ支拂ヲ停止スヘ  
キ場合アリ后ニ詳述スヘシ

第一、所持人カ破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタルキ」

此宣告ヲ受ケタル者ハ自己ノ財産ヲ處分又ハ管理スル權利  
ヲ失フモノニ付キ從テ手形ノ支拂ヲ受クル資格ナキハ當然  
ノコトナリ

參者ノ爲メ破産ト家資分散ノ區別ヲ一言スヘシ破産ハ商人  
カ商取引ヲ爲シ其取引ヨリ生スル支拂ヲ停止セシキ債務者

又ハ債權者ノ申立ニヨリ地方裁判所カ破産ノ決定ヲ爲スモ  
ノナリ故ニ支拂停止セシ商人ハ數萬ノ財産ヲ所有シ其債務  
ヲ辨濟スルノ資力アルモ一時支拂ヲ停止セシ廉ヲ以テ破産  
者ト宣告セラレヘシ家資分散ハ之ト異ナリ(家資分散ハ以前  
ノ身代限ト同シ)民事  
上契約ノ債務ヲ履行セサルヨリ(例之金銀貸借  
ノ關係ノ如シ)強制執行ノ未債務  
者ノ財産ヲ以テ債務ノ辨濟ヲ終ヘサルトキ債務者ノ申立ニ  
ヨリ執行裁判所カ家資分散ノ宣告ヲ爲スナリ故ニ之ノ宣告  
ヲ受ケタル者ハ全ク無財産ノ者タリ之ヲ言換スルハ破産ハ  
商事取引ヨリ生シ家資分散ハ民事上ヨリ生スルモノナリ  
第二、所持人カ手形ヲ所持スル權利ナキル例之代理又ハ担保  
ノ爲メ手形ヲ讓渡シタル后代理ヲ解任シ又ハ債權者ニ辨濟  
シタルニ代理人又ハ債務者カ其手形ヲ所有者ニ返還セサル

ニ付此取戻ヲ請求スルハ所有者ヨリ差押命令ヲ求ムルモ  
ノナリ

第三、手形ヲ紛失シ又ハ盗取セラレタルキ「例之紛失シタル者  
又ハ盗取セラレタル者カ此手形ヲ無効ニスル爲メ公示催告  
手續ヲ爲シタルキハ所持人ヲ正當ノ所有者ト見ル能ハサル  
ニ付支拂ヲ差止ムルモノナリ

以上述フルカ如ク支拂人カ支拂ヲ停止スルニハ裁判所ノ命令  
アル場合ニ限ルモ支拂ヲ停止スヘキ事實ノ顯著ナルトキハ命  
令ナキモ停止スルヲ得ル場合アリ即チ眞ノ手形所有者ヨリ故  
障ヲ爲シタルキ又(6)支拂人ノ面識ナキ所持人タルキ是レナリ  
例之眞ノ所有者ヨリ該手形ハ盗取セラレタルトキハ支拂人ニ  
一時支拂ヲ停止セサルヘカラス又面識ナキ所持人ナルキハ其

人ノ眞偽ヲ調査スル義務ナキモ嫌疑ヲ起スヘキ事由存スルト  
キハ特別ノ注意ヲ爲スヘキモノナリ以上ノ場合ニ於テ支拂人  
ニ甚シキ怠慢アリテ損害ノ生シタルトキハ其責ヲ負ハサルヘ  
カラス

又第二、第三ノ場合ニ於テハ訴訟事件ノ裁判確定セサレハ原告  
カ眞ノ権利者ト爲ルヤ否ヤ判然セス左レモ支拂人ニ支拂ヲ爲  
サシメス數月ヲ經過スル間ニハ支拂人ノ財産ニ變動ヲ來タシ  
財産ト爲リ原告カ幸ニ勝訴トナルモ支拂ヲ受クル能ハサルノ  
恐ナキニアラス故ニ此場合ニハ原告(眞ノ所有者)ニ於テ所有者  
タルコトヲ証明シ保証ヲ立ツルハ裁判所ノ命令ヲ得テ判決  
前支拂ヲ求ムルコトヲ得又保証ヲ立テスシテ爲替金ヲ供託處  
ニ供託セシムルコトモ爲レ得ルナリ

第三款 榮譽支拂

榮譽支拂トハ支拂人ノ支拂ヲ拒ミタル手形ニ對シ振出人又ハ  
裏書讓渡人ノ榮譽ノ爲メ榮譽引受人支拂人又ハ關係ナキ他人  
カ支拂ヲ爲スヲ云フ (此支拂人トハ引受ケセサル支拂人ヲ云フ若シ引受ケシタルハ榮譽支拂人ト  
爲ル能ハス何ントナレハ引受ケサ爲スモハ手形ニ對シ主タル義務ヲ負擔スル  
モノナレ  
ハナリ)

支拂ヲ求ムル手續 所持人ハ榮譽引受人ノ引受ヲ記シタル爲  
替手形及ヒ拒証書ヲ榮譽引受人ニ呈示シ支拂ヲ求ムヘシ而シ  
テ支拂ハカ支拂シタルト若クハ支拂ヲ拒ミタルトキ又ハ榮譽  
支拂ノ申出ニ對シ所持人カ許諾セサルトキ (所持人カ振出人裏書人等ト親密ノ  
關係ナルトハ實際ヲ破ラサル爲メ  
榮譽支拂ヲ承諾  
セサルコトアリ) ノ場合ニ於テハ其旨拒証書ニ記載シ后日償還請求  
ノ證據トスルモノトス然レモ支拂ヲ受ケシトキハ拒証書ハ手  
形ト共ニ支拂人ニ引渡スヘシ

又榮譽支拂ヲ爲サントスル者二人以上アルトキハ先ツ支拂人  
ヲ以テ榮譽支拂人トシ其次ハ振出人ヲ榮譽支拂人トス然ル所  
以ハ手形ノ振出ノ當時ハ支拂人カ支拂ヲ爲スモノト想像シタ  
ルヲ以テ支拂人ヲ第一ノ榮譽支拂人ト爲スハ實際ニ適スルナ  
ルヘシ又振出人カ支拂ヲ爲スモハ手形ノ義務者總員ノ責ヲ免  
レシムル利益アルニ付第二ノ榮譽支拂人ト爲スナリ  
爰ニ注意スヘキ一事アリ曰ク所持人カ榮譽支拂人ノ支拂ノ申  
出ヲ許諾セサルトハ受榮譽者及共后者ニ對スル償還請求權ヲ  
失フモノニ付所持人ハ容易ニ榮譽支拂ヲ拒ムヘカラス例之第  
一第二第三ノ裏書讓渡人アル手形ニ對シ第一裏書人ノ榮譽ノ  
爲メ榮譽支拂ヲ爲サントスル者アルトキ所持人之ヲ許諾セサル  
トキハ第一裏書人及其后ノ裏書人ニ對シ償還請求ヲ爲ス能ハ

サルナリ

終リニ榮譽支拂人カ支拂ヲ爲シタルヨリ生スル結果ヲ述ヘン

第一、榮譽支拂人カ爲替金額ノ支拂ヲ爲シタルキハ手形所持人

ノ有セシ權利ヲ承繼シモノトス（此權利ハ榮譽者前ノ者ニ對スル請求權ヲ云フ例之第一第二第三ノ裏書アル手形ノ場合ニ第二裏書人ノ榮

譽ヲ爲メ支拂ヲ爲シタルキハ榮譽支拂人ハ第二裏書人第一裏書人及振出人ニ對シ償還請求權ヲ有スルヲ云フ）又所持人ノ履行スヘキ義務ヲモ

引受クルモノトス例之拒証書ヲ作成シ之ヲ各義務者ニ通知ス

ル等ノ義務ヲ云フ（商法七百七十一條）

第二、榮譽支拂セシキハ受榮譽者ヨリ后ノ裏書人及保証人ハ其

義務ヲ免レシム例之第一第二第三ノ裏書人及保証人アル手形

ニ對シ第一裏書人ノ爲メニ榮譽支拂ヲ爲シタルキハ第二裏書

人及保証人ノ義務ハ免除セラレ、ナリ（商法七百七十二條）

### 第六節 償還請求

償還請求トハ支拂人カ支拂期日ニ爲替ヲ支拂ハサル時所持人

カ振出人及裏書讓渡人ニ對シ爲替金額利子并ニ不拂ニヨリテ

生レタル一切ノ費用ノ辨償ヲ請求スルヲ云フ而シテ所持人カ

此請求ヲ爲スニハ濟期日ニ支拂ノ爲メ支拂人ニ手形ヲ呈示シ

支拂人支拂ヲ爲サ、ルキハ其次ノ業日ニ拒証書ヲ作り償還請

求及拒証書作成ノ通知ヲ爲スヘシ此通知ヲ爲シタルキ振出人

及裏書讓渡人ニ對シ償還請求權發生スル者ナリ而シテ通知ス

ル日ハ所持人ヨリ爲スニハ拒証書ヲ作りタル日ノ翌日又裏書

讓渡人ヨリ自己以前ノ裏書讓渡人ニ通知ヲナスニハ所持人ヨ

リ通知書ヲ受取リタル日ノ翌日トス但已ニ引受拒証書ヲ作り

之ヲ通知シタルキト雖モ此手續ヲ爲サ、ルヘカラス

償還請求シ得ヘキ金額ハ左ノ加シ

第一 爲替金額及満期日ノ翌日ヨリ計算シタル年百分ノ十ノ

利息

第二 拒証書ノ費用其他必要ナル立替金

第三 戻爲替ヲ振出シタルトキハ其費用

(戻爲替ノコトハ后  
條ニ詳述スヘシ)

以上述べタル如ク償還請求ハ満期日ニ支拂ヲ爲サ、ルキ拒証書  
ヲ作り請求スルテ通例トスルモ或ル場合ニ限り満期日前ニ償  
還請求ヲ爲スコトヲ得(即チ引受人カ破産宣告若クハ家資分散  
ノ宣告ヲ受ケ其他資力ノ確カナラサルニ至リタル場合ニ於テ  
爲替支拂ノ爲メ十分ナル保証ヲ供セサルトキ是ナリ)此場合ハ  
期日ニ支拂ヲ爲ス能ハサルヲ判然セルヲ以テ満期日ヲ待タス  
拒証書ヲ作り償還請求ヲ爲サシム

償還義務者ハ連帶責任ナルヲ以テ之ヨリ生スル結果ヲ述ヘン  
ニ所持人ハ振出人及數多ノ裏書讓渡人ノ内一人ニ對シ請求ス  
ルモ総員ニ對シ全時ニ請求スルモ隨意タリ又第一ノ裏書人ニ  
對シ請求シタルモ不足生セシキハ第二ノ裏書人ニ對シ請求ス  
ルヲ得決シテ第一ノ裏書人ニ請求セシヲ以テ第二以後ノ裏書  
人ニ對シ請求權ヲ失フモノニアラス義務者ハ第一裏書人及振  
出人ヲ措キ自己ニ對シ償還請求スルハ不當ナリトノ抗辨ヲ爲  
スヲ得ス

義務ノ抗辨

所持人ヨリ償還請求アリタルキハ振出人ハ爲替資金ハ已ニ支  
拂人へ送附シ支拂人カ領收シタルヲ以テ償還義務ナシト抗辨  
スルヲ得ス何ントナレハ振出人ハ所持人ニ對シ保証人タルヲ



以テ支拂人カ支拂ヲ爲サ、ルキハ之カ支拂ヲ爲スノ責アルヲ以テナリ然レモ爲替資金ヲ送附スル義務アル者カ之ヲ怠リ所持人ト爲リ償還請求ヲ爲ス時ハ振出人ハ爲替資金未ダ領收セサルヲ以テ償還義務ナシト抗辨スルヲ得此場合ヲ詳言センニ始メ振出人ハ他人ノ依頼ニヨリ手形ヲ振出シタルニ后日其依頼人カ手形ノ所持人ト爲ルコトアリ此所持人ハ振出人ニ資金ヲ支拂ハサレハ償還請求ヲ爲スヲ得サルモノナリ然ルニ償還請求ヲ爲シタルトキハ振出人ハ左ノ抗辨ヲ爲スヲ得ヘシ曰此手形ノ不渡ト爲リタルハ汝カ約束ヲ履行セサルニ因ル汝若シ償還請求ヲ爲サントセハ宜ク資金ヲ交付スヘシ然ラサレハ汝ニ對シ償還ヲ爲スノ義務ナシト

### 第七節 拒証書

拒証書ニ二種アリ引受ナキニヨル拒証書及支拂ナキニ因ル拒証書是レナリ而シテ此二者ノ異ナル点ナキニアサルモ法式ニ就テハ同一ナリ

拒証書ハ執達吏又ハ公証人之ヲ作ルモノトス若シ支拂人ノ住居ノ地ニ於テ此等ノ人ナキトキハ被拒者ニ於テ証人二人ノ立會ヲ以テ之ヲ作ルヘシ此証人ハ廿才以上ノ男子ニ限ル而シテ拒証書ハ公正証書ニシテ正確ナルコトハ私証書ノ比ニアラス故ニ裁判所役員又ハ公証人カ作成スルヲ本則トス然レモ執達吏公証人ノ役場ナキトキハ止ムヲ得サルニ付特例トシテ被拒者ニ於テ作成スルヲ得(商法七百九十條)作成スヘキ場所ハ通例拒者ノ營業場トスルモ若シ營業場ナキトキハ其住居ノ内トス若シ拒者カ門戸ヲ閉チタル時ハ住居ノ傍ラニ於テ之ヲ作ルヘシ又拒者

不在ナルトキ又ハ臨席ヲ肯セス若クハ來入ヲ拒ムトキト雖モ  
 住居ノ傍ラニ於テ作ルヘシ若シ止ムヲ得サル場合アルキハ裁  
 判所又ハ公証人役場ニ於テ作ルコトヲ得(商法七百九十一條)又拒者ノ營業  
 場及住居ノ知レサル場合ニ於テ支拂地ノ郡區役町村役場ニ問  
 合ヲ爲スモ尙ホ知ルコトヲ得サルトキハ其官署内ニ於テ拒証  
 書ヲ作ルヘシ(商法七百九十二條)尤モ以上述フル如ク拒証書ハ營業場又ハ  
 住居ニ於テ作ルヘキモノナレトモ拒者ノ承諾アルトキハ何レノ  
 地ニ於テ作成スルモ差支ナキモノナリ  
 拒証書ハ通常取引時間内外ヲ問ハス作成スルヲ得ルモ一般ノ  
 休日(大祭日及日曜日)ニハ之ヲ作成スルヲ得ス  
 拒証書ニ記載スヘキ事項ハ左ノ如シ  
 第一、爲替手形ノ全文但最后ノ裏書ニ至ル迄遺漏ナク記載スヘ

第二、拒者ノ臨席又ハ不在

第三、引受支拂又ハ担保ノ要求及ヒ拒絶并ニ拒絶ノ理由

第四、右要求及ヒ拒絶ノ日并ニ場所

第五、榮譽引受又榮譽支拂アルトキハ其旨

第六、年月日、場所及臨席總員ノ署名捺印

第七、商法第七百九十三條ノ場合ニ於テハ拒者ノ承諾若シ拒者

カ署名捺印スルコトヲ欲セス又ハ署名捺印スルコト能ハサル

トキハ其旨ヲ証書ニ明記スヘシ

以上ノ事項ヲ記載セサルモ無効ニ爲ルモノニアラス第一号ノ  
 手形ノ全文ヲ記載スル能ハサル場合アリ曰ク爲替手形ヲ紛失  
 シ又ハ盜取セラレタル場合及ヒ不當ノ手形所持人ニ對シ取戻

ヲ請求スル場合(例之代埋ノ爲メ其誤認被シタル后代理ヲ解任セラルモ手形ヲ返還セサル場合)ハ手形ハ現在セサルヲ以テ手形ノ全文ヲ記載スルヲ得ス故ニ其盜取セラレ又ハ紛失シタル時ノ情況ヲ拒証書ニ明記シ且ツ成ルヘク詳細ニ爲替手形ノ趣旨ヲ記シテ手形ノ全文ニ代ユヘン

拒証書ヲ作ルヘキ場合ハ之ヲ引受ナキニヨル拒証書ノ場合ト支拂ナキニヨル拒証書ノ場合トニ別テ述ヘシ

甲、引受拒証書ヲ作ルヘキ場合

第一所持人カ満期日前ニ引受ノ爲メ支拂人ニ手形ヲ呈示シタルトキ其引受ヲ爲サ、ルトキ(商法七百三十四條)

第二引受人カ即日ニ引受ヲ爲サス又ハ條件若クハ其他ノ制限ヲ以テ引受ヲ爲シタルトキ若シクハ爲替金額ノ一部ニ付テノミ引受ヲ爲シタルキ他ノ部分ニ付テハ引受ヲ拒ミタル

ト看做スヲ以テ拒証書ヲ作ルヘキモノトス(商法七百三十八條)

乙、支拂拒証書ヲ作ルヘキ場合

第一、支拂人カ正當ノ理由ナクシテ満期日ニ爲替金額ノ支拂又ハ寄託ヲ拒ムトキハ所持人ハ其次ノ業日ニ拒証書ヲ作ルヘシ但手形ニ拒証書作成ヲ免除スルコトヲ記シタルトキハ作成スルニ及ハス(商法七百六十七條)

第二、債務者カ死亡シ又ハ破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタルトキ又ハ其所在ノ不明ナルトキ(商法七百七十七條)

以上述ヘタル引受拒証書ト支拂拒証書トノ差別ニ付一言スヘシ

第一、引受拒証書ハ引受ヲ拒ミタルハ拒証書ヲ作ルモ支拂拒証書ハ支拂ヲ拒ミタルハ之ヲ作ルモノナリ

第二、引受拒証書ヲ作ルト否トハ所持人ノ隨意ナリ左レハ振出人カ特ニ命シタル場合ニハ之ヲ作ラサルヘカラス支拂拒証書ハ之ヲ作ラサルヘカラス

第三、引受拒証書ヲ作リタルハ裏書人又ハ振出人ニ對シ担保ヲ請求スル權利アリ支拂拒証書ヲ作リタルハ此者等ニ對シ償還請求ノ權利アリ  
參者ノ爲メ拒証書ノ書式ヲ左ニ示ス

拒 証 書

手形ノ全文(手形ノ全文ヲ掲クヘシ)

明治何年何月何日何(府市町)何番屋敷何某ノ營業場ニ於テ支拂人何某ニ出會シ本手形ヲ示シ手形金何圓ヲ支拂フヘキ旨ヲ告ケタル處何某ハ未タ振出人何某ヨリ爲替資金ノ送付ヲ受ケサルニ付支拂ヲ爲ス能ハスト述ヘ支拂ヲ拒ミタリ

此証書ハ年月日何(府市町)何番屋敷何某ノ營業場ニ於テ作成ス

年月日 何區裁判所執達吏 何某印

拒 者 何某印

被拒者 何某印

第八節 戻爲替手形

戻爲替手形ハ支拂ヲ受ケサル手形所持人カ拒マレタル手形ノ金額費用並ニ戻爲替料ノ償還ヲ受クル爲メ更ニ振出人又ハ裏書譲渡人ノ一人ニ宛テ戻手形ト稱スル再度ノ手形ヲ振出スヲ云フ而シテ此手形ハ商人間常ニ頻々使用スルモノニアラス主トシテ外國トノ爲替取引上ニ用ユルモノトス此手形ノ効用ハ繁雜ナル償還請求ノ手續ト費用トヲ省キ償還義務ヲ履行セシムルニアルヲ以テ簡便ナル良法ナリ然レモ之カ爲メ償還請求ヲ爲シ能ハサルニアラス若シ此手形ノ支拂ヲ得サルトキハ本爲替ノ所持人ハ更ニ裏書人若クハ拒出人ニ對シ償還請求ヲ爲スヲ得ヘシ故ニ此手形ヲ振出ス場合ニ於テモ時ヲ過サス拒証書ヲ作り通知スルハ欠クヘカラサル手續ナリトス

又此手形ヲ支拂ヒタル者ハ自己以前ノ裏書人ノ一人若クハ振出人ニ宛テ更ニ戻爲替手形ヲ振出スヲ得ヘシ  
戻爲替手形ニハ拒マレタル爲替手形、拒証書及ヒ償還計算書ヲ添フヘシ而シテ其償還計算書ニ記載スヘキ事項ハ仲買人手數料仲立人手數料(此手形ハ通例仲買人若クハ仲立人ノ手ヲ經テ取引ノ上償還シ代金ヲ得ルモノニ付此等ノ手續料ヲ要ス)郵便税印紙税及ヒ支拂地ヨリ償還義務者ノ住地ニ宛テ振出シタル一覽拂爲替手形ノ相場等ナリ

第九節 資金

資金トハ支拂人ヲシテ爲替金額ヲ支拂ハシメン爲メ或ハ己ニ支拂ヒタルモノヲ償ハン爲メニ支拂人ニ引渡ス金額ヲ云フ但現金ニ限ラズ振出人カ支拂人ニ對シ有スル貸金立替金等ノ債權又ハ支拂人ヲ振出人ニ對シ承諾シタル信用約束(一時立替ノ如シ)ヲモ

資金ニ充ツルヲ得

爲替資金ヲ差出スヘキ義務者ハ左ノ如シ

第一、 振出人 振出人ハ爲替ノ支拂ヲ支拂人ニ依頼シタル者

ニ付資金ノ義務アレハ當然ナリ

第二、 自己ノ計算ニシテ爲替手形ヲ振出サシメタル者

例之仲買人乙者カ甲者ノ依託ニヨリ甲者ニ代リ手形ヲ振出シ

タル場合ニ於テハ甲者資金ヲ差出ス義務アル者ナリ

第三、 明示シテ爲替資金ヲ供スル義務ヲ負ヒタル裏書讓渡人

例之甲者カ支拂期日迄ニ爲替金ヲ拂込ム約束ニテ乙者ヲシテ

丙者ニ宛テ手形ヲ振出サシメ而シテ甲者ハ受取人トナリ之ヲ

丁者ニ裏書讓渡シタル場合ニシテ乙者ハ表面上名義ノミニシ

テ其實甲者カ振出人タルヲ以テ資金ノ義務アルモノナリ

資金義務者ト所持人トノ關係

引受人カ引受ヲ爲シタル片ハ爲替資金義務者ヨリ爲替資金ヲ

受取リタル者ト看做ス規定(商法八 百五條)ハ資金義務者ト支拂人トノ

關係ニ止マリ資金義務者ト所持人トノ間ニハ如斯認定ヲ爲サ

ス(商法八 百六條)其理由ハ引受ハ必ス爲替金ヲ支拂フ義務ヲ負フモノ

ナリ此義務ヲ負フハ必竟資金ヲ受取リタルカ故ナリ然レモ所

持人ハ支拂人カ資金ヲ受取リタリヤ否ヤ知ルヘキ者ニアラサ

ルヲ以テ支拂人カ資金ヲ受取リタリトノ認定ハ所持人ニ及ホ

スモノニアラス故ニ所持人ヨリ振出人ニ對シ償還ノ請求ヲ爲

シタルキ(引受人カ支拂ヲ拒ミタルニヨリ此請求ヲ爲ス)ハ振出人ハ資金ハ已ニ支拂人ニ引渡シ

タルヲ以テ最早何等ノ義務ナシト抗辨スルヲ得ス必ス支拂ヲ

爲サ、ルヘカラス(商法八 百六條)

終リニ一言スヘキコアリ曰ク振出人及裏書讓渡人ハ爲替資金  
ヲ支拂人ニ引渡シタルモ支拂人カ支拂ヲ爲サ、ル間ハ爲替支  
拂ニ付連帶義務ヲ免ルコトヲ得ス(商法八  
百九條)故ニ所持人ヨリ償還  
ノ請求アルトキハ之ニ應セサルヘカラス

### 第三章 約束手形及小切手

#### 第一節 約束手形ノ解

約束手形トハ振出人ヨリ一定ノ金額ヲ無條件ニテ受取人又ハ  
其指圖人ニ支拂フヘキ旨ヲ明記シタル信用証券ニシテ言換ユ  
レハ振出人自カラ支拂フヘシトノ約束ヲ明記シタル手形ナリ  
故ニ此手形ノ成立ニハ振出人ト受取人トノ二人ヲ要スルノミ  
ニテ爲替手形ノ如ク特ニ支拂人ヲ要セス蓋シ此手形ハ振出人  
カ支拂人タレハナリ

約束手形ニ記載スヘキ條件左ノ如シ(商法八百  
十一條)

- 第一、 振出年月日及ヒ場所
- 第二、 支拂金額但文辭ヲ以テ記スヘシ
- 第三、 受取人ノ氏名又ハ指圖セラレタル人若クハ所持人ニ支  
拂フ可キ旨
- 第四、 満期日
- 第五、 振出人ノ署名捺印

#### 約束手形

一金何 圓

約束手形書式  
右之金額何年何月何日貴殿又ハ指圖人エ無  
相違御支拂可申候

振出人 何 某

何 某 殿

約束手形ハ振出人ノ指圖ニテ振出スコトヲ得ス即チ振出人カ  
 自ヲ受取人ト爲ルヲ得ス(商法八百二十條)然ル所以ハ約束手形振出人ハ  
 義務者ニシテ之カ受取人ハ債權者ナリ若シ振出人ニシテ受取  
 人ヲラソカー人ニシテ權利者トナリ又義務者トナル譯ニテ義  
 務ノ成立スルコトナキヲ以テナリ此規定ハ爲替手形トハ異レ  
 リ爲替手形ナレハ振出人カ受取人ト爲ルモ差支ナキコトハ已  
 ニ説述シタル所ナリ

約束手形ニ支拂地ヲ記スヘキモノナレトモ之ヲ記載セサルモ  
 無効トナルモノニアラス之ヲ掲ケサルキハ振出ノ地ヲ以テ支

拂地トナス(商法八百十三條)故ニ支拂地記載ナキ手形ヲ受取人ハ振出地  
 ニ於テ支拂ヲ求メサルヘカラス此規定モ爲替手形ト異ル所ニ  
 シテ爲替手形ニ支拂地ヲ掲ケサルトキハ無効トナルヘシ

約束手形ノ振出人ハ其振出ニヨリテ支拂期日ニ至レハ當然支  
 拂ヲ爲ス義務ヲ負担スルモノナリ故ニ受取人ハ支拂期日前ニ  
 引受ヲ受クル爲メ又ハ支拂ノ爲メ手形ヲ振出人ニ呈示シ若ク  
 ハ拒証書ヲ作ル等ノ手續ヲ要セス然レモ一覽后定期拂ノ約束  
 手形ハ支拂引受ノ爲メ手形ヲ呈示セサルヘカラス何ントナレ  
 ハ此手形ハ支拂人へ呈示シ其日ヨリ支拂期日ヲ起算スヘキモ  
 ノナルニ若シ呈示ヲ要セストセハ支拂期日ハ到來セサルコト  
 、爲ルヲ以テ呈示ヲ要スル次第ナリ又他所拂人ヲ掲ケタル約  
 束手形モ引受ノ爲メ呈示セサルヘカラス何ントナレハ此他所



拂人ハ一種ノ支拂人ナリ支拂人ハ手形ノ呈示ヲ受ケ之ヲ引受  
 ケ始メテ義務ノ生スルモノニ付呈示ヲ必要トセリ(商法八百  
 十四條)此規  
 定モ爲替手形ト異ナル所ニシテ爲替手形ハ必ス引受支拂ノ爲  
 メノ呈示又ハ拒証書ノ作成ヲ要スルモノナリ  
 以上述ヘタル規定ノ外爲替手形ニ關スル規則ニシテ約束手形  
 ノ性質ト矛盾セサルモノハ約束手形ニ應用スヘキモノナリ例  
 之能力時効ノ規定ノ如キハ約束手形ニモ應用スヘキハ當然ナ  
 リ

### 第二節 小切手ノ解

小切手ハ其他取引上ノ關係ヨリ信用ヲ有スル者カ其銀行ニ依  
 賴シ其銀行ヲシテ記名人若クハ指圖セラレタル人又ハ所持人  
 ニ呈示ヲ受ケ次第或ル金銀ヲ支拂ハシムル証券ニシテ之ヲ言

換ユレハ銀行ニ預ケ金ヲ爲シタル者カ其金員ヲ引出ス毎ニ用  
 ユル証券ナリ故ニ小切手ノ振出人ハ銀行ニ預ケ金ヲ爲シタル  
 者ニシテ支拂人ハ常ニ銀行ナリ

小切手ニ記載スヘキ條件左ノ如シ(商法八百  
 十七條)

- 第一、 振出ノ年月日
- 第二、 振出人署名捺印
- 第三、 一覽拂ナルヲ
- 第四、 其他銀行ト明示又ハ默示シテ約定シタル振出ノ方式

### 小切手

一金何 圓

右ノ金額某殿又ハ全人指圖人へ御支拂可被下候

年月日  
何銀行御中

何 某 百

小切手ノ裏書

小切手モ爲替手形ノ如ク裏書ヲ以テ何人ニモ讓渡スコトヲ得  
ヘシ若シ裏書讓渡人ノ署名捺印ノミヲ以テ裏書讓渡ヲ爲シタ  
ル片又ハ無記名式ニテ振出シタルキハ裏書ヲ要セス引渡ノミ  
ニテ讓渡スコトヲ得ヘシ(商法八百十八條)尙ホ裏書ノコトニ付テハ第十  
節ニ述ヘタルヲ以テ茲ニ贅言セス以上述ヘタル如ク小切手ノ  
振出シ及裏書ハ方式ヲ要スルモノニ付之ヲ守ラサルヘカラス  
若シ日付ヲ爲サス若クハ日付ヲ爲スモ實際ト異ナル日付ヲ爲  
シテ小切手ヲ振出シ裏書讓渡シ若クハ之ニ受取証ヲ記スル者

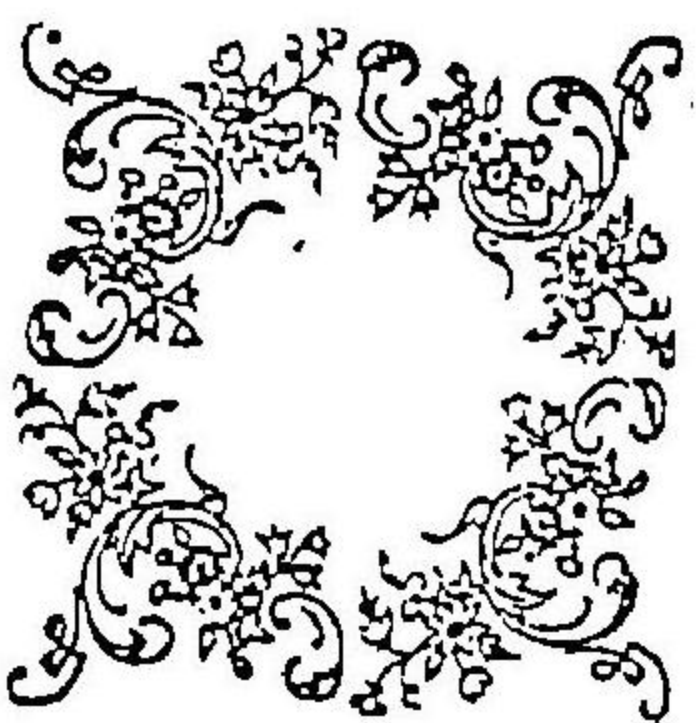
又ハ日付ナキ小切手ヲ受取り支拂ヒ若クハ之ニ受取証ヲ記ス  
ル者又ハ相當ノ信用ナクシテ小切手ヲ振出シ若クハ正當ノ理  
由ナクシテ依頼ヲ取消ス者ハ小切手金額ノ百分ノ十ノ科料ニ  
處セラルヘシ若シ刑法上罰スヘキ詐欺又ハ偽造等ノ所爲アル  
キハ科料ト併セテ刑セラルヘシ(商法八百二十三條)此科料ハ裁判所ノ命令  
ヲ以テ之ヲ科スルモノナリ但此命令ニ對シテハ即時抗告ヲ爲  
スヲ得即時抗告トハ此科料ノ命令ニ對シ不服アルモノカ其上  
級裁判所ニ向テ再審ヲ求ムル手續ヲ云フモノニシテ恰モ控訴  
ト同一ノ意味ナリ而シテ其抗告期限ハ命令ノ送達ヨリ七日ト  
ス(民事訴訟法四百五十五條  
四百六十六條參照)尙ホ詳細ハ民事訴訟法ニ規定アルヲ以テ之  
ニ讓ル

小切手ノ支拂請求

所持人ハ爲替手形ノ如ク支拂入ニ對シ引受ヲ求ムルニ及ハス  
 何ントナレハ小切手ハ金錢支拂ノ代リニ使用スルモノナルカ  
 故支拂人ニ呈示シタル時支拂ハルヘキハ當然ナルニヨル又支  
 拂人カ支拂ヲ拒ミタルモ拒証書ヲ作り不拂ヲ証明スルノ要ナ  
 シ何ントナレハ小切手ハ通例遠隔ノ地ニ流通スルモノニアラ  
 サルニ付特ニ煩雜ナル手續ヲ爲スニ及ハサルニ因ル(商法八百  
 十九條)夫  
 レ所持人カ支拂ヲ請求スルニハ一定ノ期限アリ即振出地ト支  
 拂地ト同一ナレハ日付后五日以内又異ナル片ハ十日以内ニ限  
 レリ而シテ小切手ヲ呈示スルモ支拂人ヨリ支拂ヲ受ケサルト  
 キハ同地内ニ於テハ日付后十日以内又振出地ト支拂地ト同シ  
 カラサル場合ニ於テハ二十日以内ニ所持人ハ裏書讓渡人若ク  
 ハ振出人ニ對シ又裏書讓渡人ハ自己以前ノ裏書人若クハ振出

人ニ對シテ償還請求ヲ爲スヘシ若此期限ヲ經過スルトキハ償  
 還請求權ヲ失フモノトス但特例トシテ裏書讓渡人カ所持人ヨ  
 リ請求ヲ受ケタル翌日自己以前ノ裏書人振出人ニ爲シタル償  
 還請求ハ右期限ヲ過キタルモ有効ナリ(商法八百二  
 十一條一項)  
 又振出人カ銀行ニ對シ信用ヲ有セス又ハ信用ヲ消盡シ又ハ依  
 頼ヲ取消タル片ハ右期限ノ經過后ト雖モ所持人ハ振出人ニ對  
 シ償還請求權ヲ有ス(商法八百二  
 十條二項)  
 又振出人ハ小切手ニ付キテノ争生シタルトキハ其小切手帳及  
 通帳ヲ差出ス義務アリ  
 所持人カ銀行ヨリ支拂金ヲ受取ル時ハ小切手ノ裏面ニ受取証  
 ナ記シテ之ヲ引渡スヘシ(商法八百  
 二十二條)  
 尙ホ一言スヘキハ小切手ノ時効ノコトナリ小切手ノ時効ハ手

形ト同シク三年ヲ以テ時効ニ罹ルモノナレハ其期限ノ起算方  
ハ小切手ノ日付ヨリ爲スモノナリ



### 商法第十二章手形及小切手法正文

#### 總則

第六百九十九條 手形ハ或ル金額カ支拂ハル可キ旨ヲ明記シ指圖式又ハ無記名式ニテ發行  
スル信用證券タリ

手形ニハ條件ヲ付スルコトヲ得ス

第七百條 商ヲ爲スコトヲ得ル各人ハ爲替義務ヲ負フコトヲ得

第七百一條 手形ニ爲替無能力者ノ署名アルモ其他ノ署名ノ効力ハ此カ爲メニ妨ケラレル  
コト無シ

第七百二條 手形ノ要件ヲ外觀ノ爲メニノミ記入シタル手形ハ其情ヲ知リタル者ノ爲メニ  
ハ之ヲ手形ト看做サス

第七百三條 他人ヨリ特ニ委任ヲ受クルコト無ク又ハ代理ノ事實ヲ明記スルコト無クシテ  
他人ノ爲メニ手形ニ署名スル者ハ此ニ因リテ自己ニ責任ヲ負フ

第七百四條 手形ノ受取人ハ直チニ振出人ニ對シ又其後ノ各所持人ハ其前者ヲ經由シテ振  
出人ニ對シ番號ヲ記シタル同文手形數通ノ交付ヲ求ムルコトヲ得

手形ノ各所持人ハ需用ニ應シテ自ラ手形ノ謄本ヲ作ルコトヲ得

第七百五條 手形ハ其文言ニ因リテ直接ニ義務ヲ負ハシム但法律又ハ商慣習ニ依リテ例外  
ト爲ス可キモノハ此限ニ在ラス

第七百六條 法律上ノ要件ヲ掲ケサル手形又ハ要件ト共ニ違法ノ事項ヲ掲ケタル手形又ハ  
文言カ互ニ抵觸シ其抵觸ヲ法律ノ許セル方法ヲ以テ取除クコトヲ得サル手形ハ無効ナリ  
第七百七條 手形上ノ重要ナラサル附記ハ法律上ノ要件ニ適スル手形ノ文言ノ効力ヲ妨ク  
ルコト無ク又爲替上ノ義務ヲ生セシムルコト無シ

第七百八條 偽造又ハ變造ノ手形ハ手形トシテ其効チ有ス然レトモ偽造、變造ニ因リテ義  
務ヲ生スルコト無シ但一旦生シタル義務ハ變更セサルモノトス  
偽造、變造ニ付テノ異議ハ其偽造、變造ヲ爲シタル者又ハ其情ヲ知リテ手形ヲ取得シタル  
者ニ對シテ之ヲ起コスコト得

第七百九條 爲替義務ハ其負擔ニ關シテハ手形ニ記載シタル地ノ法律ニ從ヒ若シ其地ヲ記  
載セサルトキハ債務者ノ住所ノ法律ニ從ヒテ之ヲ定メ又其履行ニ關シテハ履行ヲ爲ス可  
キ地ノ法律ニ從ヒテ之ヲ定ム  
爲替上ノ權利ヲ行使シ及ヒ保全スル爲メニスル行爲ハ其行爲ノ地ノ法律ニ從ヒテ之ヲ爲  
スコトヲ要ス但手形ニ其他ノ地ヲ記載シタルトキハ此限ニ在ラス

第七百十條 手形又ハ小切手ノ占有者ニシテ正當ノ方法ニ依リ且甚シキ怠慢ニ出テスシテ  
之ヲ取得シタル者ハ其手形又ハ小切手若クハ其代金ノ引渡ノ請求ニ應スル義務ナシ  
但其占有ノ原因消滅シタルトキハ此限ニアラス

第七百十一條 盜取セラレ又ハ紛失シ若クハ滅失シタル手形及ヒ小切手ニ付テハ第四百三  
條ノ規定ヲ適要ス

第七百十二條 爲替手形ノ引受人又ハ約束手形ノ振出人ニ對スル爲替上ノ請求權ハ滿期日  
ヨリ三ヶ年ヲ以テ時効ニ罹リ又所持人若クハ裏書讓渡人ヨリ振出人若クハ前裏書讓渡人  
ニ對スル償還請求權ハ請求ノ通知ヲ爲シタル日ヨリ三ヶ年ヲ以テ時効ニ罹ル

時効ハ訴ヲ起シ其他各箇ノ裁判上ノ手續ヲ爲スニ因リテ中斷セラレ又裁判上ノ判決ニ依  
リ又ハ書面ニ明示シテ債務ヲ承認シ新債務ト爲シタルニ因リテ消滅ス  
第七百十三條 一覽拂又ハ一覽後定期拂ノ手形ニ在テハ時効ハ呈示ニ付キ規定セラレタル  
期間ノ滿了ヨリ始マル但其滿了前ニ呈示ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

第七百十四條 手形ヨリ生スル請求權ヲ時効ニ因リ又ハ法律ニ規定シタル行爲ヲ怠リタル  
ニ因リテ失ヒタル者ハ其失ヒタルニ拘ハラズ支拂人、振出人又ハ裏書讓渡人ニ對シ此等  
ノ者カ支拂ハサル爲替資金若クハ取戻シタル爲替資金ニ因リテ己レナ利シタル限度ニ於  
テ右請求權ヲ主張スルコト得第七百十一條ノ場合ニ係ルモノト雖モ亦同シ

第七百十五條 總テ手形ニ署名ヲ爲シタル者ハ此ニ因リ連帶シテ義務ヲ負擔ス然レトモ此  
連帶義務ハ各義務者ニ於テ特立ノモノトス  
爲替ノ訴ハ其總員ニ對シ又ハ其一人ニ對シテ之ヲ起スコトヲ得

第一節 爲替手形

第一款 振 出

第七百十六條 爲替手形ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

第一 振出ノ年月日及ヒ場所

第二 爲替金額但文辭ヲ以テ記ス可シ

第三 支拂人ノ氏名

第四 受取人ノ氏名又ハ其指圖セラレタル人若クハ所持人ニ支拂フ可キ旨及ヒ満期日並支拂地

第五 振出人ノ署名、捺印

第七百十七條 振出人ハ爲替手形ヲ自己ノ指圖ニテ振出シ又ハ自己ニ宛テ振出スコトヲ得

第七百十八條 爲替手形ノ金額二十五圓以上ナルトキハ無記名式ニテ振出スコトヲ得

第七百十九條 満期日ハ定マリタル日又ハ日附ノ後定マリタル期間又ハ一覽ノ時又ハ一覽後定マリタル期間ニ於テノミ之ヲ定ムルコトヲ要ス

第七百二十條 爲替手形ニ満期日ヲ記載セサルトキハ其手形ハ一覽ノ時ニ満期ト爲ル

第七百二十一條 支拂人ノ住地又ハ其他ノ地「他所拂替爲手形」ハ支拂地トシテ之ヲ記載スルコトヲ得他ノ地ヲ記載シタル場合ニ在テ爲替手形ニ支拂ノ爲メ他人「他所拂人」ヲ明記セサルトキハ支拂人ハ其記載シタル地ニ於テ支拂ヲ爲スコトヲ要ス

第一款 裏書

第七百二十二條 爲替手形ノ受取人及ヒ其後ノ各所持人ハ若シ其手形ニ反對ヲ明記セサルトキハ裏書ヲ以テ之ヲ他人ニ轉付スルコトヲ要ス

第七百二十三條 裏書ニハ其年月日、場所、裏書讓渡人ノ署名、捺印及ヒ裏書讓受人氏名アルコトヲ要ス然レトモ裏書讓渡人ノ署名捺印ノミヲ以テモ亦裏書讓渡ヲ爲スコトヲ得

第七百二十四條 裏書ニハ其日ヨリ前ノ日附ヲ爲スコトヲ禁ス之ニ違フトキハ偽造、變ノ刑ニ處ス

第七百二十五條 無記名式ニテ振出シ又ハ裏書讓渡人ノ署名捺印ノミヲ以テ裏書讓渡ヲ爲シタル爲替手形ハ交付ノミヲ以テ之ヲ轉付スルコトヲ得

第七百二十六條 爲替手形ハ満期後ト雖モ裏書讓渡ヲ爲スコトヲ得又代理若クハ擔保ノ爲メ裏書讓渡ヲ爲スコトヲ得

第七百二十七條 支拂ノ爲メニスル呈示及ヒ拒證書ノ作成ヲ事情ニ因リテ正當時期内ニ爲スコトヲ得ナル爲替手形ノ裏書讓渡ハ満期後ノ爲替手形ノ裏書讓渡ニ同シ

第七百二十八條 満期後ノ爲替手形ノ裏書讓渡ハ其裏書讓渡人ノ權利及ヒ義務ノミヲ裏書讓受人ニ轉付スルモノトス然レトモ裏書讓受人ハ満期後ニ爲替手形ノ裏書讓渡ヲ爲シタル各ハニ對シテ如何ナル方式ニモ羈束セラレズ且獨立シタル償還請求權ヲ取得ス

第七百二十九條 代理ノ爲メ又ハ擔保ノ爲メニスル裏書讓渡ハ其目的ヲ爲替手形ニ記載セサルトキハ第三者ニ對シテ眞ノ裏書讓渡アリ

第七百三十條 代理ノ爲メニスル裏書讓渡ニシテ其目的ヲ記載シタルトキハ其裏書讓受人ハ裏書讓渡人ノ權利及ヒ義務ヲ行フ但特別ノ記載アルニ非サレハ眞ノ裏書讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第七百三十一條 擔保ノ爲メニスル裏書讓渡ニシテ其目的ヲ記載シタルトキハ其裏書讓受

人ハ裏書讓渡人ト同一ノ權利義務ヲ行フ但債權ノ辨濟ヲ受ケサル場合ノ外其ノ裏書讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第七百三十二條 裏書讓渡ハ各裏書讓渡人ノ順序カ裏書讓受人ニ至ルマテ間斷ナキトキニ限リ裏書讓受人ノ爲メ効力アリ但代理又ハ擔保ノ爲メ裏書讓渡ヲ爲シタル爲替手形ハ裏書讓渡人ニ於テ更ニ裏書讓渡ヲ爲スコトヲ得

第七百三十三條 裏書讓渡ノ法律上ノ効力ハ爲替手形ニ裏書讓渡ヲ禁スル旨ヲ記載シタルカ爲メ之ヲ失フコト無シ但之ヲ禁シタル者ニ對スル償還請求權ハ此カ爲ニ消滅ス

第三款 引 受

第七百三十四條 爲替手形ノ所持人ハ其手形ニ別段ノ記載ナキトキハ滿期日前ニ引受ノ爲メ支拂人ニ之ヲ呈示スルコトヲ得若シ支拂人其引受ヲ爲ササルトキハ拒證書ヲ作ルコトヲ得

振出人ハ所持人ニ於テ引受ノ爲メ其手形ノ呈示ヲ爲スコトヲ得若シ爲ササルトキハ償還請求權ヲ失フ可キ旨ヲ記スルコトヲ得此場合ニ於テ支拂人引受ヲ爲ササルトキハ其翌日拒證書ヲ作ル可シ

第七百三十五條 一覽後定期拂ノ爲替手形ハ別ニ短キ呈示期間ノ記載ナキトキハ日附後遅クトモ二年内ニ引受ノ爲メ之ヲ呈示ス可シ若シ之ヲ呈示セサルトキハ振出人及ヒ裏書讓渡人ニ對スル償還請求權ヲ失フ

支拂人カ方式ニ依レル引受ヲ拒ミ若シハ引受ノ日附ヲ爲スコトヲ拒ムトキハ拒證書ヲ作

ルコトヲ得此場合ニ於テハ拒證書作成ノ日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス若シ拒證書ヲ作ラサルトキハ呈示期間ノ末日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス但其翌日迄ニ拒證書ヲ作ラサルトキハ振出人及ヒ裏書讓渡人ニ對シテ擔保ヲ求ムルコトヲ得ス

第七百三十六條 引受ハ支拂人カ爲替資金ヲ受取リタルト否トヲ問ハズ爲替手形ノ所持人ニ對シテ滿期日ニ爲替金額ヲ支拂フ義務ヲ支拂人ニ負ハシム又所持人ニ引受ノ旨ヲ記シタル爲替手形ヲ還付シタル後ハ強暴又ハ詐欺ノ場合ヲ除ク外之ヲ取消スコトヲ得ス

第七百三十七條 引受ハ支拂人カ爲替手形ニ引受ノ旨ヲ記シテ署名、捺印ヲ爲シ又ハ署名、捺印ノミヲ爲スニ因リテ成ル此方式ニ依ラサル引受ノ効力ハ第八百五條ノ規定ニ從フ

第七百三十八條 即日ニ引受ヲ爲サス又ハ條件若クハ其他ノ制限ヲ以テ之ヲ爲シタルトキハ引受人ハ其引受ノ爲メ當然羈束セラルルモ所持人ハ之ヲ拒ミタリト看做スコトヲ得若シ爲替金額ノ一分ニ付テノミ引受ヲ爲シタルトキハ他ノ部分ニ付テハ其引受ヲ拒ミタリト看做ス

第七百三十九條 所持人引受ノ拒證書ヲ作リタルトキハ其作成ヲ遅延ナク振出人又ハ裏書讓渡人ニ通知ス可シ

右ノ通知ヲ爲シタル所持人ハ振出人又ハ裏書讓渡人ニ對シテ爲替金額及ヒ拒證書ノ費用並ニ展爲替ノ費用ヲ滿期日ニ支拂フコトニ付テノ擔保ヲ求ムル權利ヲ有シ各裏書讓渡人ハ自ラ擔保ヲ爲シタルト否トヲ問ハズ前者ニ對シテ右同一ノ權利ヲ有ス但拒證書ノ交付ヲ受クルニ非サレハ擔保ヲ供スル義務ナシ

當事者ノ一人カ爲シタル通知及ヒ其受ケタル擔保ハ其後者總員ノ爲メニモ効力アリ  
 第七百四十條 振出人及ヒ裏書讓渡人ハ擔保ヲ爲スニ換ヘテ前條ニ掲ケタル一切ノ金額  
 ナ即時ニ所持人ニ支拂ヒ又ハ即時ニ供託所ニ寄託スルコトヲ得  
 第七百四十一條 擔保又ハ寄託ハ後ニ至リ爲替手形ノ引受アリタルトキ又ハ爲替金額若ク  
 ハ償還金額ノ支拂アリタルトキ又ハ所持人カ時効若クハ懈怠ニ因リテ爲替手形上ノ權利  
 ヲ失ヒタルトキハ其生シタル費用ヲ引去リテ之ヲ還付スルコトヲ要ス  
 第七百四十二條 第七百四十條ノ規定ニ從ヒテ爲替金額及ヒ費用ヲ所持人ニ支拂ヒタル者  
 ハ其所持人ニ對シテ裏書讓渡ヲ求メ且爲替手形ト共ニ受取證ヲ記シタル償還計算書ノ交  
 付ヲ求ムルコトヲ得

### 第四款 榮譽引受

第七百四十三條 支拂人カ引受ヲ拒ミタル爲替手形ニ同地ニ於ケル豫備支拂人ヲ掲ケタル  
 トキハ其爲替手形ヲ拒證書ト共ニ引受ノ爲メ遲延ナク豫備支拂人ニ呈示ス可シ  
 第七百四十四條 豫備支拂人ヲ掲ケサルトキト雖モ支拂人及ヒ第三者ハ拒マレタル爲替手  
 形ヲ振出人又ハ裏書讓渡人ノ榮譽ノ爲メニ引受クルコトヲ得然レトモ所持人ハ此ノ如キ  
 參加ヲ許諾スル義務ナシ  
 第七百四十五條 二人以上ノ參加アルトキハ最モ多數ノ義務者ノ榮譽ノ爲メニ引受ヲ爲ス  
 者ヲ以テ榮譽引受人トス若シ受榮譽者ヲ記載セサルトキハ振出人ヲ受榮譽者ト看做ス  
 第七百四十六條 豫備支拂人ノ引受其他所持人カ許諾シタル參加人ノ引受ハ受榮譽者及ヒ

其後者ニ擔保ヲ供スル義務ヲ免カレシム

第七百四十七條 榮譽引受ハ支拂人カ支拂ヲ爲サルトキニ於テ參加人ニ滿期後爲替金額  
 ナ支拂フ義務ヲ負ハシム

第七百四十八條 榮譽引受ハ參加人爲替手形ニ之ヲ記載シテ署名、捺印シ且拒證書若クハ  
 其附箋ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第七百四十九條 拒證書ハ拒證書費用ノ辨償ヲ受ケタル上之ヲ參加人ニ交付シ參加人ハ遲  
 ク拒證書作成ノ翌日受榮譽者ニ榮譽引受ヲ爲シタル旨ヲ通知シテ拒證書ヲ送付スルコ  
 トヲ要ス若シ此事ヲ怠ルトキハ此ニ因リテ生スル損害ニ付キ責任ヲ負フ

第七百五十條 受榮譽者及ヒ其前者ハ擔保ヲ求ムル權利ヲ有ス然レトモ所持人ハ第七百四  
 十四條ニ依リテ榮譽引受ヲ許諾セサルトキニ非サレハ之ヲ有セス

### 第五款 保證

第七百五十一條 爲替手形ニ於テ爲替債務者ノ署名ニ自己ノ署名ヲ添フル第三者ハ其債務  
 者ト連帶シテ義務ヲ負フ

第七百五十二條 前條ノ義務ヲ負擔スルニハ別ニ書面上ノ陳述ヲ以テスルコトヲ得  
 第七百五十三條 爲替保證ノ義務ハ明示ノ契約ヲ以テ之ヲ制限スルコトヲ得然レトモ其制  
 限ハ契約ヲ爲シタル當事者間ニノミ効力アリ

### 第六款 支拂



第七百五十四條 爲替金額ハ爲替手形ニ記載シタル貨幣ヲ以テ之ヲ支拂フ可シ若シ特ニ貨幣ノ種類ヲ表示セサルトキハ支拂地ニ於テ商人間ニ流通スル貨幣ヲ以テ支拂テ爲ス意思ナリト推定ス

第七百五十五條 支拂ハ第七百七十八條ノ場合ヲ除ク外ハ支拂人カ引受テ爲シタルト否トヲ問ハス満期日ニ支拂人ノ方ニテ之ヲ受クルモノトス

支拂恩惠期日ハ之ヲ許サス然レトモ其地慣習ノ支拂日ハ之ヲ遵守スルコトヲ要ス

第七百五十六條 満期日カ一般ノ休日ニ當ルトキハ其後ノ業日ヲ以テ支拂日トス

第七百五十七條 一覽拂爲替手形ハ呈示ノ日ニ満期ト爲ル若シ日附後二年内ニ呈示ヲ爲

サ、ルトキ又ハ二年内ノ呈示期間ヲ其手形ニ定メサルトキハ日附後二年内ヲ以テ満期ト爲ル若シ正當ノ時期ニ呈示ヲ爲サ、ルトキハ所持人ハ振出人及ヒ裏書讓渡人ニ對スル償還請求權ヲ失フ

第七百五十八條 債權者カ爲替金額ヲ満期日ニ受取ラサルトキハ支拂人ハ債權者ノ費用及ヒ危險ニテ其金額ヲ供託所ニ寄託スルコトヲ得此場合ニ於テハ支拂人ハ甚シキ怠慢ニ付テノミ責任ヲ負フ

第七百五十九條 債權者ハ満期日前ニ支拂ヲ受クル義務ナシ若シ満期日前ニ支拂ヲ爲シタルトキハ債權者其危險ヲ負擔ス

第七百六十條 債權者ハ満期ノ時又ハ後ニ所持人ニ支拂ヲ爲スヲ以テ其責ヲ免カル但し其際債權者ニ甚シキ怠慢アリタルトキハ此限ニ在ラス

第七百六十一條 支拂ハ受取證ヲ記シタル爲替手形ノ交付ト引換ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

債權者ハ一分ノ支拂ヲ拒ムコトヲ得ス但一分ノ支拂ノ場合ニ在テハ爲替手形ニ其支拂ヲ記入シ且其支拂ニ付テノ別段ノ受取證ヲ債權者ニ交付ス可シ

第七百六十二條 爲替手形ヲ數通ニシテ振出シタルトキハ債權者ハ其中ノ孰レニ依リテ支拂ヲ爲スモ此ニ因リテ其責ヲ免カル然レトモ裏書アル一通又ハ支拂人ノ引受ヲ記シタル一通ヲ所有者トシテ占有スル第三者ノ權利ヲ妨ケス

第七百十條及第七百十一條ノ規定ハ一爲替手形ノ數通ノ引渡及ヒ喪失ニモ之ヲ適用ス

第七百六十三條 引受人ハ一爲替手形ノ數通中ニテ其引受ヲ記セサルモノニ對シテハ擔保ヲ供セシメタル上ニ非サレハ支拂ヲ爲ス義務ナシ引受ヲ記シタル爲替手形數通アル場合ニ在テハ之ヲ合シテ引渡サ、ルトキモ亦同シ若シ擔保ノ提供ヲ爲スニ抱ハラス引受人カ支拂ヲ拒トキハ所持人ハ拒證書ヲ作ルコトヲ得

第七百六十四條 満期ノ時又ハ後ニ於テ爲替手形上ノ正當ノ所持人ニ爲ス支拂ハ其所持人カ破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタル場合又ハ第七百十條及ヒ第七百十一條ノ場合ニ限リ裁判所ノ命令ヲ以テノミ之ヲ差押フコトヲ得

第七百六十五條 支拂ニ對シ前條以外ノ方法ヲ以テスル故障又ハ債權者ノ知ラサル人ニ爲ス支拂ニ付テハ第四百條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第七百六十六條 第七百十條及第七百十一條ノ場合ニ在テハ爲替手形ニ付キ自己ノ所有權

ヲ疏明シ且裁判所ノ命令ヲ得タル者ハ判決ノ確定前ニ擔保ヲ供シテ爲替金額ノ支拂ヲ求  
メ又ハ擔保ヲ供セスシテ爲替金額ヲ供託所ニ寄託スルヲ求ムルコトヲ得此奇託ノ場合ニ  
在テモ第七百五十八條ノ規定ヲ適用ス

第七百六十七條 支拂人カ正當ノ理由ナクシテ滿期日ニ爲替金額ノ支拂又ハ寄託ヲ拒ムト  
キハ所持人ハ其次ノ業日ニ拒證書ヲ作り且所持人カ償還請求ヲ爲サント欲スル者ニ拒證  
書ノ作成ヲ通知スルコトヲ要ス然レトモ所持人ハ爲替手形ニ明記アルニ因リテ拒證書作  
成ノ義務ヲ免カル、コトヲ得

### 第七款 榮譽支拂

第七百六十八條 拒マレタル爲替手形ハ振出人又ハ裏書讓渡人ノ榮譽ノ爲メ榮譽引受人、  
支拂人又ハ第三者之ヲ支拂フコトヲ得

第七百六十九條 豫備支拂人其他ノ参加人ノ引受ヲ記シタル爲替手形ハ拒證書作成ノ後直  
チニ榮譽引受人ニ支拂ノ爲メ之ヲ呈示ス可シ

第七百七十條 榮譽支拂若クハ其拒絶又ハ其提供ハ何レノ場合ニ於テモ之ヲ支拂拒證書又  
ハ其附箋ニ記載ス可シ

其拒證書ハ爲替手形ト共ニ拒證書費用ノ辨償ヲ受ケタル上之ヲ榮譽支拂人ニ交付ス

第七百七十一條 榮譽支拂人ハ引受人、振出人及裏書讓渡人ニ對シテ所持人ノ權利ヲ承繼  
ス但其權利ヲ主張スルニハ所持人ト同一ノ義務ヲ履行スルコトヲ要ス

第七百七十二條 榮譽支拂ハ榮譽者ノ後者總員ナシテ責ヲ免カレシム

第七百七十三條 榮譽支拂ヲ提供スル者二人以上アルトキハ支拂人ヲ以テ榮譽支拂人トシ  
之ニ次テハ最も多數ノ義務者ヲシテ責ヲ免カレシムル者ヲ以テ榮譽支拂人トス

第七百七十四條 所持人ハ榮譽支拂ヲ受クルコトヲ拒ムニ因リテ榮譽者及ヒ其後者ニ對  
スル償還請求權ヲ失フ

### 第八款 償還請求

第七百七十五條 支拂人カ滿期日ニ爲替手形ノ支拂ヲ爲サ、ルトキハ所持人ハ振出人及ヒ  
裏書讓渡人ニ對シ爲替金額及ヒ其利息並ニ不拂ニ因リテ生シタル一切ノ費用ニ付キ償還  
請求權ヲ有ス

第七百七十六條 所持人ハ爲替手形ヲ滿期日ニ支拂ノ爲メ呈示ス可シ若シ支拂ヲ爲サ、ル  
トキハ滿期日ノ次ノ業日ニ支拂拒證書ヲ作ル可シ但第七百六十一條第二項ニ掲ケタル一  
分ノ支拂ノ場合ニ於テモ亦同シ

第七百七十七條 支拂拒證書ハ既ニ引受拒證書ヲ作りタルトキニモ債務者カ死亡シ又ハ破  
産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ又ハ其所在ノ知レサルトキニモ之ヲ作ル可シ

第七百七十八條 引受人ニ對シテ爲替權利ヲ保全スルニハ滿期日ニ於ケル呈示及ヒ拒證書  
ノ作成ヲ要セス然レトモ他所拂爲替手形ハ他所拂人若シ他所拂人ノ記載ナキトキハ支拂  
人ニ其爲替手形ヲ支拂フ可キ地ニ於テ支拂ノ爲メ之ヲ呈示ス可シ若シ支拂ヲ爲サ、ルト  
キハ同地ニ於テ拒證書ヲ作ル可シ

第七百七十九條 引受人カ破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ其他資力ノ確ナラサルニ至リ

タル場合ニ於テ爲替支拂ノ爲メ十分ナル擔保ヲ供セサルトキハ所持人ハ滿期日前ニ支拂拒證書ヲ作リテ償還請求ヲ爲スコトヲ得

第七百八十條 所持人ハ振出人及ヒ裏書讓渡人ノ各員又ハ總員ニ對シ償還請求ヲ爲スコトヲ得又償還請求ヲ受ケタル裏書讓渡人ハ其前者ニ對シテ同一ノ權利ヲ有ス

第七百八十一條 償還請求ヲ爲ス者ハ第七百三十九條ノ規定ニ依リテ引受拒證書作成ノ通知ヲ爲シタルニ拘ハラス尙ホ其償還請求ヲ爲サント欲スル前者ニ書面ヲ以テ其請求及ヒ支拂拒證書作成ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス其通知ハ所持人ニ在テハ拒證書ヲ作リタル日ノ翌日、裏書讓渡人ニ在テハ通知書ヲ受取リタル日ノ翌日之ヲ爲スコシ但裏書讓渡人ノ通知ハ其後者ノ爲メニモ効力アリ

第七百八十二條 前者ニ對シテ償還請求ヲ爲シタルモ此カ爲メニ其後者ハ償還義務ヲ免カレス

第七百八十三條 拒證書作成ノ義務免除ニ因リテ拒證書作成ノ權利及ヒ償還請求權ハ消滅セス然レトモ此場合ニ於テ其免除ヲ爲シタル者ノ後者ニ在テハ其免除ヲ爲シタル者ニ對シ贍本ヲ以テ爲替手形ノ送付ヲ爲スト同時ニ書面ニテ償還請求ノ通知ヲ爲スコトヲ以テ足レリトス

第七百八十四條 (削除)

第七百八十五條 償還請求權ハ支拂人カ爲替資金ヲ受取リタリトノ抗辯ノ爲メニ効力ヲ失フコト無シ然レトモ爲替資金ヲ供スル義務アル者ニ對シテハ其者カ爲替資金ヲ供セザリ

シトノ抗辯ヲ爲スコトヲ得

第七百八十六條 償還請求ハ左ノ額ニ付キ之ヲ爲スコトヲ得

- 第一 爲替金額及ヒ滿期ノ翌日ヨリ起算シタル年百分ノ十ノ利息
- 第二 拒證書ノ費用其他必要ナル立替金
- 第三 戻爲替ヲ振出シタルトキハ其費用

第七百八十七條 (削除)

第七百八十八條 償還義務者ハ爲替手形、拒證書及ヒ受取證ヲ記シタル償還計算書ノ交付ヲ受クルニ非サレハ支拂ヲ爲ス義務ナシ

第七百八十九條 爲替義務者ハ償還金額ノ支拂ト引換ニテ受取證ヲ記シタル爲替手形及ヒ支拂拒證書ノ交付ヲ所持人ニ求ムル權利アリ

第九款 拒證書作成

第七百九十條 拒證書ハ裁判所ノ役員又ハ公證人之ヲ作ルモノトス若シ其地ニ此等ノ人ナキトキハ被拒者ニ於テ證人二人ノ立會ヲ以テ之ヲ作ル可シ但其證人ハ成年ノ男子タルコトヲ要ス

第七百九十一條 拒證書ハ拒者ノ營業場若シ營業場ナキトキハ其住居ノ内若クハ傍ニ於テ之ヲ作ル可シ但拒者不在ナルトキ又ハ臨席ヲ肯セス若クハ來入ヲ拒ムトキト雖モ亦同シ若シ己ムヲ得サル場合アルモハ裁判所又ハ公證人役場ニ於テ拒證書ヲ作ルヲ得

第七百九十二條 拒者ノ營業場及ヒ住居ノ知レサル場合ニ於テ支拂地ノ官署ニ問合ヲ爲ス

モ尙ホ知ルコトヲ得サルハ拒證書ハ其官署内ニ於テ之ヲ作ルコトヲ要ス  
第七百九十三條 法律上定メタル場所ノ外ニ於テモ拒者ノ承諾アルトキハ拒證書ヲ作ルコトヲ得

第七百九十四條 一般ノ休日ニハ拒證書ヲ作ルコトヲ得ス然レトモ通常ノ取引時間外ニ於テ之ヲ作ルハ妨ケナシ

第七百九十五條 拒證書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

- 第一 爲替手形ノ全文但最後ノ裏書ニ至ルマテ遺漏ナク記載ス可シ
- 第二 拒者ノ臨席又ハ不在
- 第三 引受、支拂又ハ擔保ノ要求及ヒ拒絶並ニ拒絶ノ理由
- 第四 右要求及ヒ拒絶ノ日並ニ場所
- 第五 榮譽引受又ハ榮譽支拂アルトキハ其旨
- 第六 年月日、場所及ヒ臨席總員ノ署名、捺印
- 第七 第七百九十三條ノ場合ニ於テハ拒者ノ承諾

若シ拒者カ署名、捺印スルコトヲ欲セヌ又ハ署名、捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ證書ニ明記ス可シ

第七百九十六條 第七百九十一條乃至第七百九十四條ノ規定ハ引受又ハ支拂ノ爲メニスル呈示、爲替手形數通ノ要求其他本章ノ規定ニ從ヒ或人ノ方ニテ爲ス可キ行爲ニモ之ヲ適用ス

第七百九十七條 第七百十條及ヒ第七百一十一條ノ場合ニ於テハ其情況ヲ拒證書ニ明示シ且成ル可ク詳細ニ爲替手形ノ旨趣ヲ記シテ爲替手形ノ全文ニ代フ

第七百九十八條 裁判所ノ役員又ハ公證人ハ其作リタル拒證書ノ全文ヲ日日帳簿ニ記入シ且被拒者ノ求ニ因リテ數通ニ之ヲ作ル義務アリ  
拒證書作成ノ費用ハ被拒者之ヲ立替フルコトヲ要ス

### 第十款 戻爲替手形

第七百九十九條 所持人ハ償還金額ニ付キ各償還義務者ニ對シテ戻爲替手形ヲ振出スコトヲ得

第八百條 戻爲替手形ノ費用ノ額ハ仲買人手數料仲立人手數料郵便稅印紙稅及ヒ支拂地ヨリ償還義務者ノ住地ニ宛テ振出シタル一覽拂爲替手形ノ相場ニ因リテ定マル  
右ノ相場ハ戻爲替手形ヲ遞次振出ス場合ト難モ本爲替手形ノ支拂地ヨリ振出地ニ宛テタル一覽拂爲替手形ノ相場ニ超ユルコトヲ得ス

第八百一條 戻爲替手形ニハ拒マレタル爲替手形拒證書及ヒ償還計算書ヲ添フ可シ

第八百二條 戻爲替手形ヲ支拂ヒタル者ハ其前者中ノ一人ニ宛テ更ニ戻爲替手形ヲ振出スコトヲ得

### 第十一款 資金

第八百三條 振出人又ハ自己ノ計算ニテ爲替手形ヲ振出シメタル者又ハ明示シテ爲替資金ヲ供スル義務ヲ負ヒタル裏書讓渡人ハ支拂人ニ對シテ爲替資金ヲ供スル義務ヲ負フ

第八百四條 現金支拂ノ外爲替資金義務者カ支拂人ニ對シテ有スル債權又ハ信用ハ之ヲ爲替資金ニ充ツルコトヲ得

第八百五條 方式ニ依ラサル引受ト雖モ其引受ニ依リテ引受人カ爲替資金義務者ヨリ爲替資金ヲ受取リタリトノ推定ヲ生ス但參加引受ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

第八百六條 爲替資金義務者ト所持人トノ間ニ在テハ爲替手形ノ引受ニ依リテ爲替資金ヲ供シタリトノ推定ヲ生セス

第八百七條 爲替手形ノ支拂ヲ爲シタル支拂人ハ爲替資金ノ請求權ヲ爲替ノ原則ニ從ヒテ主張スルコトヲ得

第八百八條 支拂人ニ代ハリテ爲替手形ノ支拂ヲ爲シタル者ハ支拂人又ハ償還義務者ニ對シテ所持人ノ權利ヲ主張スルコトヲ得

第八百九條 振出人及ヒ裏書讓渡人ハ爲替資金ヲ供シタルモ爲替手形ノ引受及ヒ支拂ニ付キ違滯ノ責任ヲ免カル、コトヲ得然レトモ其責任ハ別段ノ契約ヲ以テ其契約者間ニ於テノミ之ヲ制限シ又ハ廢止スルコトヲ得

第八百十條 支拂人ハ爲替資金ヲ受取リタルトキハ勿論假令之ヲ受取ラサルモ振出人其他ノ爲替資金義務者ニ對シ爲替手形ノ引受及ヒ支拂ノ義務ヲ明示ニテ負擔シタルトキハ引受若クハ支拂ヲ爲サ、ルニ因リテ振出人其他ノ爲替資金義務者ニ生シメタル損害ニ付キ責任ヲ負フ但此損害ニ付テノ請求ハ豫メ之ヲ支拂人ニ通知スルコトヲ要セス

### 第二節 約束手形

第八百十一條 約束手形ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

第一 振出ノ年月日及ヒ場所

第二 支拂金額但文辭ヲ以テ記ス可シ

第三 受取人ノ氏名又ハ其指圖セラレタル人若クハ所持人ニ支拂フ可キ旨

第四 満期日

第五 振出人署名捺印

第八百十二條 約束手形ハ振出人ノ指圖ニテ之ヲ振出スコトヲ得ス

第八百十三條 約束手形ニ別段ノ支拂地ヲ掲ケサルモハ振出ノ場所ニ於テ其支拂ヲ爲コトヲ要ス

第八百十四條 約束手形ノ振出人ハ其振出ニ因リテ満期日ニ支拂ヲ爲ス義務ヲ負擔ス

振出人ニ對シテ爲替權利ヲ保全スルニハ引受ヲモ支拂ノ爲メニ呈示ヲモ拒證書ノ作成ヲモ要スルコト無シ然レトモ一覽後定期拂ノ約束手形又ハ他所拂人ヲ掲ケタル約束手形ニ在テハ其振出人ニ關シテモ第七百三十五條及ヒ第七百七十八條ノ規定ヲ適用ス

### 第三節 小切手

第八百十六條 小切手ハ寄託其他ノ方法ニ依リ銀行ニ對シテ繼續スル信用ヲ有スル者カ其銀行ニ依頼シ之ヲ記名セラレタル人又ハ指圖セラレタル人若クハ所持人ニ呈示ヲ受ケ次第或ル金額ヲ支拂ハシムル證券タリ

第八百十七條 小切手ニハ年月日ヲ記シ振出人署名捺印ス可シ又小切手ハ一覽拂トスルニ非サレハ之ヲ振出スコトヲ得ス其他銀行ト明示又ハ黙示ニテ約束シタル振出ノ方式ハ之ヲ遵守スルコトヲ要ス

第八百十八條 小切手ハ裏書ヲ以テ之ヲ轉付スルコトヲ得若シ裏書讓渡人ノ署名捺印ノミヲ以テ裏書讓渡ヲ爲シタルトキ又ハ無記名式ニテ振出シタルトキハ交付ニ因リテ之ヲ轉付スルコトヲ得

第八百十九條 小分手ハ引受ヲモ拒證書ヲモ要スルコト無シ又小切手ハ日附後三ヶ年ヲ以テ時効ニ罹ル小切手ハ同地内ニ於テハ日附後五日以内又振出地ト支拂地ト同シカラサルトキハ十日内ニ其支拂ヲ請求ス可シ

第八百二十條 呈示ノ上ニテ支拂ヲ受ケサルトキハ同地内ニ於テハ日附後十日内又振出地ト支拂地ト同シカラサル場合ニ於テハ二十日内ニ所持人ハ裏書讓渡人若クハ振出人ニ對シ裏書讓渡人ハ其前者若クハ振出人ニ對シテ償還請求權ヲ有ス但右ノ期限ヲ過キタルモ裏書讓渡人カ請求ヲ受ケタル翌日ニ爲シタル償還請求ハ有効ナリ

振出人ニ對シテハ振出人カ信用ヲ有セス又ハ信用ヲ消盡シ又ハ依頼ヲ取消シタルトキハ右期間ノ滿了後ト雖モ償還請求權ヲ有ス

振出人ハ爭アル場合ニ在テハ其小切手帳ヲ裁判所ニ差出ス義務アリ

第八百二十一條 振出人又ハ所持人ハ小切手ニ横線ヲ附シ其横線内ニ特ニ銀行ノミ支拂フ可キ旨ヲ記載スルコトヲ得

第八百二十二條 小切手ハ支拂金ヲ受取ル時受取證ヲ記シテ之ヲ交付スルヲ要ス

第八百二十三條 日附ヲ爲サス若クハ虚偽ノ日附ヲ爲シテ小切手ヲ振出シ裏書讓渡シ若クハ之ニ受取證ヲ記スル者又ハ日附ナキ小切手ヲ受取リ支拂ヒ若クハ之ニ受取證ヲ記スル者又ハ相當ノ信用ナクシテ小切手ヲ振出シ若クハ正當ノ理由ナクシテ依頼ヲ取消ス者ハ小切手金額ノ百分ノ十ノ過料ニ處ス若シ刑法上ノ刑ニ處ス可キ行爲アルトキハ併セテ其刑ニ處ス

前項ノ過料ニ付テハ第二百六十一條第一項ノ規定ヲ適用ス

明治卅年十一月廿一日出版  
明治卅年十一月廿六日發行

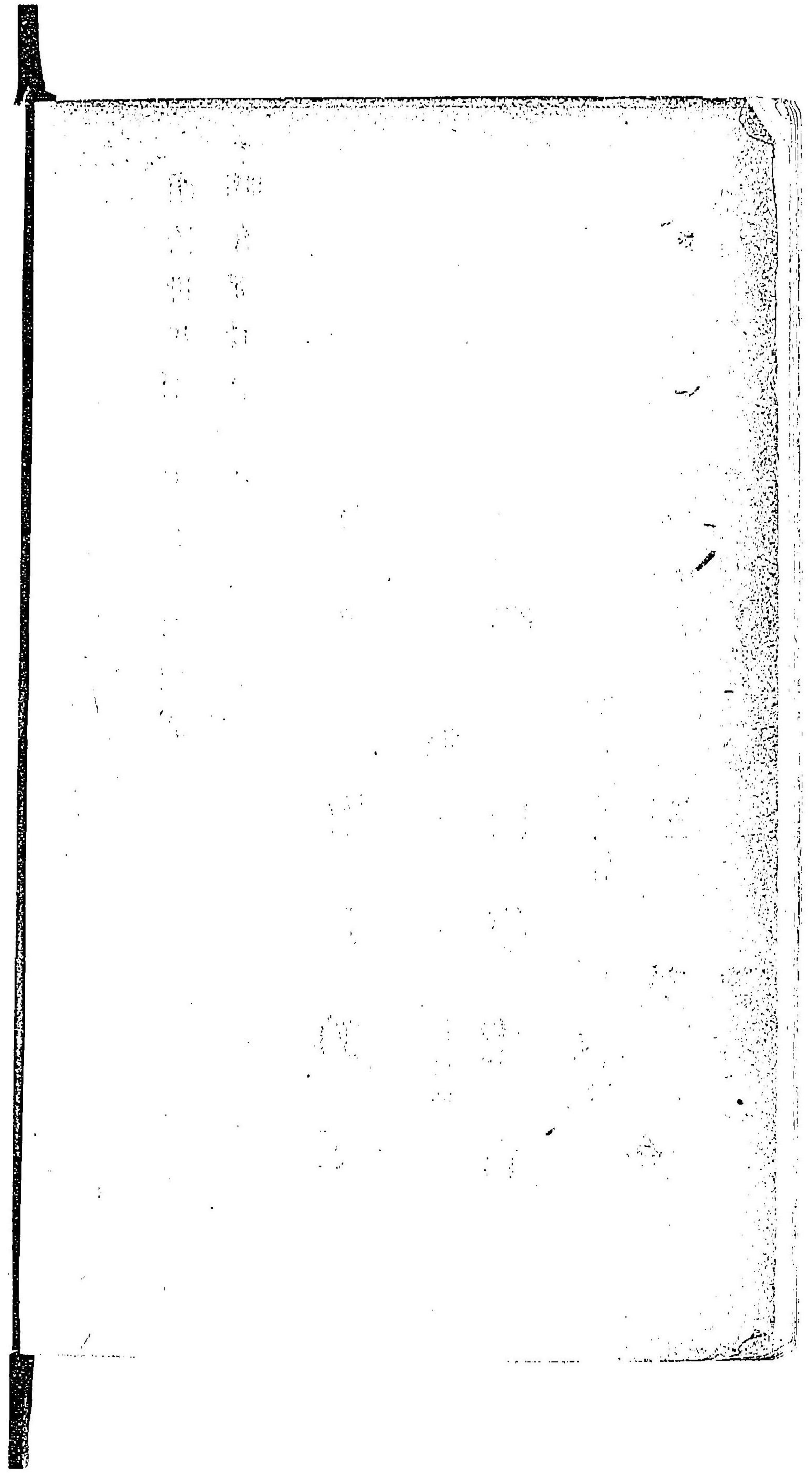
著者 增戶勤三

大阪市南區末吉橋通三丁目百五番屋敷

發行兼印刷者 山根定吉

大阪市南區末吉橋通三丁目百五番屋敷

發行所 三英舍





76
155

